

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教文学と文化	2・3・4	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	キリスト教で学んだ知識をもとにキリスト教に関する視野を広げていく内容である。キリスト教の歴史について概観した後、聖書を土台とした芸術作品を鑑賞したり、文学作品を味わったりすることによって、が学生自らの人生に語りかける聖書のメッセージについて考えることができた。今年度は少人数であったので、グループではなく、個人でキリスト教に関するテーマを自由に設定し、調査・発表を行い視野を広げていき、全員が各々の興味関心について発表しあうことができた。少人数であることを生かし、ひとりひとりの興味関心を大切に、ディスカッションも多く取り入れながら授業を展開した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.0であった。トータルの成績の平均値は約80%以上。聖書を土台として西洋の文学作品・芸術作品に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えよう。また、チャペルレポートの提出やクリスマス礼拝への参加は100%であり、コメントカードの内容と感想文の内容から、チャペルや教会訪問を通し、キリスト教の価値観を養うことができる、という行動目標も達成された。 1. 著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察できる。 2. キリスト教に関連するテーマを調査し発表を行い、教養を養うことができる。 3. チャペルや教会訪問を重ねることを通し、キリスト教の価値観を養うことができる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目はキリスト教を終え、更にキリスト教について深めたい学生が中心に受講している。本学の要となる聖書の内容を学ぶキリスト教の学びを踏まえ、展開している。聖書の学びを前提としての発展的な学びであり、文学や芸術に関して幅広く扱っているが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察し、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表を行い教養を養うことができる、という行動目標については、講義だけでなく、グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らで習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本講義は、キリスト教の学びをより深めたい学生の興味に応じることが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.0であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年度は少人数であったので、個々人の興味関心にあわせて研究テーマを設定することができた。また、教員と学生との関係も密にすることができ、一人ひとりについて把握しながら進めることができたことは大きな収穫であった。受講者が観光文化の学生のみであったので、他学科の学生にも関心を持って欲しいと願う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	山本 達夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
西洋の歴史と文化	2・3・4	後期	選択	はい	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機のうち、「単位数を確保する」61.8%について「関心のある内容である」41.2%がもっとも多い。「西洋の歴史と文化」というテーマは学生の関心が高いことがわかる。これをふまえて本講義では以下の3点に留意した。①毎回、講義の最後にアンケートを行い、質問や疑問をとおして講義の理解を深めること。②学生の自由記述へのコメントを通して、歴史・文化の理解で重要なのは暗記ではなく「テーマの切り取り方・焦点のあて方」であることを伝えること。③日本史、東洋史と西洋史を関連づけて話し、いわゆる「フレーム・オブ・リファレンス」を拡大するよう努めること。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均点は76.4点で標準レベルであった。受験者のうち80点以上に達したものは22名、90点以上は2名で、再試対象者はいなかった。知識理解、思考判断の両目標はおおむね達成された。学生による授業評価では、「歴史・社会を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野についての的確に判断する力を得ることができた」、「知識を確認・修正したり、新たに得ることができた」の各項目について比較的高い達成度が示された。次年度は、各授業のはじめに示す「ねらい」を明示するとともに、講義中は個人への質問だけでなくグループ討論も適切に取り入れるようにしたい。また、西洋古代・中世史（次年度は近現代史中心）のテーマについて受講生の既知の知識を歴史学上の問題と関連づけて理解させるよう努めたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、受講動機で「関心のある内容である」が41.2%でもっとも多いことからみて「西洋の歴史と文化」というテーマは学生の関心が高いことがわかる。本科目が学科横断科目であることは、こうした学生の興味関心に沿うものであり、妥当であると考え。講義の内容についても、試験において受講生が一定水準の成績を収めており、また学生の自由記述にも「豆知識がすごく面白かった。説明もわかりやすかった」「感想やコメントに目を通してくれていて返答がしっかり帰っているところがとてもよかった」とあることから、おおむね妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の項目における「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均は3.0であった。また「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会が設けられていた」の項目は3.4であったものの、学生が積極的に参加する時間は十分にとることができなかった。次年度は質問を個人に投げかけるのではなく、質問内容によってはグループごとに意見をまとめさせるなどの工夫をしたい。予習・復習の時間も少なかったように思う。そこで、毎回の授業のまとめを次回に提出させるなど、復習のかたちをとった講義の理解を徹底させたい。また、学生の意見のなかに「教授する知識の量が多すぎて頭に入らない」というものがあつた。これについては、近代以降の歴史を重点的に学習できるようシラバスを大幅に修正することで対処したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学科横断的選択科目である本科目の位置づけから見ると、基礎的知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。他方、思考判断の面ではいくぶん課題を残したようである。よって次年度以降、講義中は質問を個人に向けて投げかけるのではなく、設問によってはグループごとに意見をまとめさせるなどして積極的に志向判断能力を向上させたい。また「教授する知識の量が多すぎる」という学生の意見に対しては、近代以降の歴史を重点的に学習すべく講義内容を修正することで対処したい。これは、「広く浅くではなく狭く深くしてほしい」との学生コメントに応える方途でもある。さらに、毎回の講義目標を示すとともに復習課題も積極的に提示していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	2・3・4	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生から4年生までの総合人間科学の授業であるため、授業の最初にアジアへの理解や学習準備状況の確認アンケートを行い、不足の項目に△△を新たに加えた。②国際的視野に立ってアジアの事を幅広く学び、考えさせながら、アジア社会歴史文化に触れて行った。15回授業における、それぞれ異なる内容の勉強により、より深く異文化理解をしてもらった。③アジアの歴史文化に関心を向上させるために11回目にレポートを提出してもらった。④学習状況を確認するために15回目にテストを実施した。学生の勉強意欲を高めるためである。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は95であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達した。目標別に見ると、知識理解に関しては学生による授業評価において、授業の課題以外に具体的に組み込んで、学習はPCで調べたり学生のそれぞれの関心問題を調べたりしたことが示された。これは学生が思考判断で何が問われているかを提出されたレポートは幅広い領域に亘った豊富な内容であった。但し、授業の課題以外に学習していない理由については「無回答」等の自己評価が示された。これは、勉強に積極的に、自覚していなかったことが考えられる。とくに「図書館の利用」などについては不足していたことは次年度に明確に指示、指導するという反省点が考えた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は総合人間科学の科目であるが、総合的な視点と豊かな人間性を養うための教養教育科目の位置づけ、学習者の国際的社会文化を修得して、国際的な視野を広げ、多様化、多様性を複眼的に備える人間の育成の内容的には妥当であるとする。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量評価において、授業の課題以外に学習していない理由としては、配布された資料がなかった。図書館の利用、インターネット利用はなかったなどが挙げられた。次年度学習時間、方法などを提示し、検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学にあたる本科目の位置づけからグローバル社会に臨んでいる大学生としての教養をえること。アジアの歴史と文化を学習する同時に多様な社会等を理解してもらうことを毎回の狙いとして具体的に示していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	松田 憲

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学	2・3・4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度は履修人数が少なかったが、かえって受講者一人一人の理解度の確認は行いやすかった。昨年度のアンケートや成績も考慮して、講義内容は全体的に難易度を下げ、抽象的な理論よりも具体的な事例を増やし、動画等のデモも多く導入した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験の平均点は78点であった。講義では毎回理解度を確認しながら進めたものの、全員が80点以上ではなかった。試験は持ち込み可であったが、講義内容が非常に膨大であったことがその原因と考えられる。とはいえ、講義内容を絞るとそれはリベラルアーツの本質に反するため、これについては学生自身の主体的な学習を期待したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	心理学における各領域について多くの先行研究とそれによって得られた理論を体系的に紹介した本講義は、内容理解というポリシーから見て妥当であると判断する。講義内容はデモを多用した体験学習を導入することで、受講生の積極性を強めた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	受講生の少なさがどのように影響するかを危惧していたが、講師と受講生が近いという意味ではとてもよかったように思う。しかし一方で、受講生の側から内容に関する質問がほとんど出てこなかったため、議論に深みが出なかったこともあった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	受講生の少なさがどのように影響するかを危惧していたが、講師と受講生が近いという意味ではとてもよかったように思う。しかし一方で、受講生の側から内容に関する質問がほとんど出てこなかったため、議論に深みが出なかったこともあった。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	河岸 重則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	2・3・4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講生は高校時代に「化学」を履修した人が少なく、また「化学」に苦手意識を持っている人が多い。加えて、ほとんどの受講生が「単位確保」を目的としての履修のため、授業内容を易しくて、日常意識していないが注意してみると「化学」が生活の中にたくさん存在していることを理解し関心をもってもらうことを目的とした。 ②上記の目的のため講義内容をその時間内に理解することに重点をおいているので特に「予習・復習」を求めているではない。 ③数回、確認テストを行い、理解度のチェックを行なった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①試験を資料持込で行い、その資料を理解しているなら点数のとれる形式で行なった。平均点は70点であった。 ②身の回りの化学から受講生のおのおのが自分でレポートの課題を決定して提出させたが、全員きちんと仕上げていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	科目は「総合人間科学科目」であり、また選択科目、学科横断的科目である。試験の点数、レポート内容から、内容的に妥当であるとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	全学年が受講対象であるため、授業に対しての取り組み方に違いがある。授業に集中してもらうために質問したりしている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考える。
------------------------------	-------------------------------------

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	2・3・4	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①日々変化する環境問題や国際関係を取り上げるために、教科書は使用せず、適時レジュメと参考資料を配布した。②理解の難しい用語や組織、団体、事象に関しては新聞記事、インターネット、動画等を利用し、学生が取り組みやすいように工夫した。③重要な項目に関しては、授業内で学生同士で議論をさせ答えを導き出せるように指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は86点、再試対象者は0名であった。標準偏差値はSは11名、Aは1名、Bは3名、Cは0名、Dは1名であった。高得点者が全体の約8割を占めた。これは授業で取り上げた環境問題や国際関係等に関心や熱意を示す学生の結果が反映されたものと思われる。DPにおいても大半の学生が各項目について高い評価をしている。選択科目であったため、受講動機においても単位数の確保を目的とする学生が4割強、授業内容に関心を持ち、臨んだ学生は6割、また友人が履修しているも2割弱いた。選択科目に関しては、学生の興味や関心が低いと結果も振るわない傾向が見られる。しかし大半の学生が「知識の確認、修正、新たに得る」「視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力」「的確に判断する力」「必要となる技術」等で概ね良好な評価を示した。これは授業で新聞、テレビ、インターネット等の多様なメディア教材を使い、学生の興味を促した結果と思われる。このDPの結果から選択科目が学生にとって新たな視点や考え方を養う良い機会と捉え、興味や関心を持てるような工夫を授業に導入し、加えて地道な自己学習が成果へと繋がることを指導する必要があると感じた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性：観光学科のCPに明記されているように「知識と教養を培い、総合的・分析的視点で問題を捉える能力を伸ばす」「学びと現代社会・関係諸領域との関係を理解できるようにする」目的として、本科目は目的にかなった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：授業内容から学生には現代社会の情報収集が要求され、DPの到達自己評価は平均値を全て上回ってはいいたが、数名の学生は低い評価をしていた。これは、クラスの約4割弱の学生がシラバスを参考にしていないことから判断すると、授業の主な目的や内容についての知識が無く受講したために、学生各人に興味のばらつきが生じた可能性があると考えられる。シラバスには図書館、インターネット等を活用し、情報収集が必要であることを明記していたので、図書館利用の学生が前年を上回る結果となった。またDPの「職業倫理」「職業選択の参考」では概ね平均以上の評価を示す学生が多く、観光学科の学生の学習ニーズにも適った内容となっていたと考えられる。全般的にクラスの雰囲気は良好で、大変真面目に学習に取り組んでいた。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価:全項目に関して多数の学生が高く評価していた。最新の情報を教材として取り上げ、また海外ボランティアやNGOで活躍する日本人の活動等を紹介したことが学生の関心を高めた結果と思われる。さらに国内外の諸問題をグループで話し合い、発表するなど学生に参加する機会を努めて作った結果が数字に表れていると思われる。②学習量の評価:授業に参加するための予習、復習をしなかった学生が大半であることから、授業中での復習を兼ねた小テストやレポートの提出を検討している。③学修のための情報利用、図書館利用:受講動機で「関心のある内容である」と全員が回答し、シラバスを通して講義の内容を理解して臨んだ学生にとっては満足度の高い講義となったと思われる。図書館利用に関しては利用者数が皆無であったことから、図書館利用を促す取り組みを行う必要性を強く感じた。また国内外の事象を学習する観点から、メディア等を利用した情報収集が学習内容の一つであることを指導強化する必要性を感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	選択科目は単位数を確保する目的で受講する学生が多い中、本科目は受講動機で「関心のある内容である」を挙げている学生が大半を占めた。このことを踏まえて、オリエンテーションでは授業の内容や狙いを的確に伝え、学生の国内外の事象に対する関心を深めるための良い機会と捉え、メディアからの情報収集や図書館利用の強化を促したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
韓国の社会と文化	2・3・4	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業は韓国に関心をもって出席している学生が多いため、基礎的な知識を教授するだけの授業にとどまらず、彼女たちがもつ知識をどう発展させ、より深く韓国文化の理解につなげていくかの点を重視して授業の構成を考えた。発表テーマから自分たちで決めて行うプレゼン授業を通して、彼女たちの韓国文化への理解や、他国文化との比較を通じて、日本文化を再発見してもらうことも授業のサブテーマとした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	『到達度自己評価』の結果データからして、学生たちの能力を引き出すことができた実感している。また、『学びを深めたい意欲』についても、受身の授業ではなくプレゼンといった学生主体の授業形式を取り入れたことによって、学生の知的好奇心や探究心を大きく刺激することができたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この講義は専門分野における基礎的知識と運用能力、さらには他者と協働し国内外で活躍できる確かなコミュニケーション能力を身につけているかどうかといった観点から評価されるものであるが、本講義は学生たち主体の発表や意見交換を中心に構成されており、カリキュラムマップにおける位置づけからみた内容的妥当性に問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、「授業の質の評価」の結果データからみて、学生に大きな不満はなかったように思われる。またプレゼン主体の授業形式のわりに図書館利用の割合は低いが、学生たちがもつ最新の情報雑誌からの引用や、実際に韓国旅行に行ったときの体験談などをもとにして、プレゼン資料を作成していたことが原因と考えられる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	この授業を受ける学生は、近年の韓国ブームの影響によって最新の韓国事情に詳しい人が多く受講していたのが特徴的であった。そのため、彼女たちのもつ韓国に関する断片的な知識を、一つのテーマごとに学術的にとらえ、その背景理解や日本文化との比較などを通して、単なるブームとしてではなく、真の韓国理解につながるような授業を心がけ、彼女たちも楽しんで授業に参加してくれていたと感じている。韓国文化に関して、同年代の学生同士の情報共有も可能となったと思う。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フランス語Ⅱ	2・3・4	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本リフレクションは回答者数が4名で、志望動機は「関心のある内容である」が最も多く3名が選び、その他は「資格取得に必要である」「単位数を確保する」をそれぞれ1名が選んだ。昨年度同様、受講者数が減少傾向にあり、少人数のクラスとなった分、個別対応がさらに容易にできるようになった。前期の「フランス語Ⅰ」の単位を全員が取得していたため、後期もすんなりと開始できていた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.7点(±30点)であり、全員が標準的レベルに達し、再試対象は0名だった。学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と答えた割合がDP1「知識・理解」、DP5「技能・表現」とともに100%という結果だった。学習量の面では、4名中全員が授業に参加するための準備や授業の復習を1回以上行ったことがあるという回答だった。授業の記録には、3名が自分なりのノートを作成した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、どの項目も評価は高かった(平均値は4.0から4.8)。授業では必ず学生一人一人と言葉を交わし、会話やコミュニケーションを重視したり、作文を提出させるなどの個別指導が丁寧にできたことが評価につながったものと考ええる。受講動機で最も多かった「関心のある内容である」に答えるべく、ニュースやテレビ番組などの映像を毎回視聴し、教科書にとどまらないさまざまな事象を理解したり、学びを深める機会とした。自由記述のアンケートでもそのことが印象深いものとして挙げられており、また「毎回楽しかった」「いつかフランスに行きたい」という声もあった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書 館、インターネット利用」学生の意見など	授業中にクラスメイトと話し合っ発表する機会が多く、わりと和気あい あいとしたスムーズな進行だった。毎回復習項目からスタートさせ、徐々 に新規項目に入ることとし、前回欠席した学生もついて来られるように努 めた。毎回の授業の進め方には特に問題はなかったと思うが、週1コマの 授業ではなかなか定着しない知識を、いかに定着させるかは今後の課題 である。もう少し小テストや宿題を行ったり、図書館を利用できるような 課題を設けて学習量を増やす必要があると感じた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	教員が一方的に「教える」のではなく、学生同士で「学び合う」授業ス タイルを徹底させた結果、シラバスに沿った到達目標は達成できた。さ らなる向上のためフランス語を「遠い言語」とせず、授業外でもっとフ ランス語に親しめるよう、図書館やインターネットを利用させるなど、 教科書だけにとどまらない学習方法を提示していき
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	那須 省一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習D	2・3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この講座の受講生はわずか8人だったが、受講動機の大半は「関心のある内容である」という積極的なものだった。TOEICは制限時間内に与えられた問題にいかにより迅速に、的確に答えるかというテストであり、高得点を上げるにはある程度の語彙力が不可欠。このことを念頭に、普段の予習・復習で語彙力を着実に増やしていくように訴えた。また、受講生の理解度を確認するため、6、11回目の授業では小テストを実施し、学生の理解度を確認するとともに、寸評を付記し、さらなる学習に向けて激励した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	これまで本大学を含め、数々の大学で講座を担当してきたが、今回の授業が一番教えやすい、またやりがいのある講座だった。それは小テストの成績や最終の定期試験の成績にもよく出ていた。アンケート調査の「到達度自己評価」の項を見ても、「目標達成」や「知識の確認」「表現力の向上」などいずれの分野においても、全受講生がほぼ満足のいく内容であったと評価している。「授業の質評価」でもネガティブな回答は皆無だった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	私たちが住む社会の国際化はこれからも一層進んでいくのは必至であり、今後も英語がその架け橋となる国際語であることにも何ら変わりはないものと思われる。TOEICはその英語力を判断する一指標に過ぎないが、就職に際して各社・各組織がTOEICである程度の高得点を要求している。だからTOEICで高得点を獲得する技術を磨くのはきわめて妥当と言える。観光文化科の学生にとっては特に望まれる技量だと思う。大半の学生が「内容に関心がある」との理由からこの講座を選択していたことや、授業の記録にもそれぞれ工夫していたことが伺えたことも彼女たちの将来に希望を抱かせた。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	学生アンケートの中に通常はいくつか見られる自由記述のコメントは今回はひとつもなかったのは残念だった。特段の「注文」がなかったのだろうと解釈したい。ただし、シラバスの記載を参考にしたという受講生は一人だけであり、また、図書館やネット・メディアのホームページなどを活用したと答えた者も皆無だった。TOEICでヒアリングの力をつけるにはネット・メディアを活用するのは最高・最善の手段とも言える。授業ではことあるごとにそう強調したつもりだが、そうしたものを活用した姿勢がうかがえないことは講師として無力感さえ感じる。私の本学での授業はこれで終了したが、将来また機会が与えられたなら、このことを忘れないようにしたいと思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	家根橋 伸子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅱ	2	後期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施においては、「日本の歴史と文化地理Ⅰ」に続きアクティブラーニングを念頭に自主的に調べ、考え、発表する能力の育成を大切にするとともに、批判的思考能力の育成を目指した。昨年度私の上記授業を受けていない学生に対して、学習準備性の点で不安があったが、授業の初回において趣旨となぜそのような授業方法をとるのか(本授業は知識理解、思考判断での能力向上を目指している。教師は、真の知識理解とは主体的に調べ、考え、他者に向けて発信・共有することで初めて得られるものであると考えている。またその過程で批判的思考・判断力も養成されること)を説明した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績は、欠席が多いこと、発表及び他者の発表へのコメントシートの内容が不十分であった者、無断途中退席など授業態度の悪かった者を除き、80%がS～Aという評価となった。 ②発表の評価として批判的思考を問うたが、全体的に思考の深さや鋭い視点での資料提示・考察が提示された。 ③ただし、ごく一部の学生で不十分な発表に終わった者があり、評価をCとした。これらの学生が学習量においても当然低い評価となったと思われる。 以上から、概ね目標は達成されたものと評価した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は知識理解、思考判断での能力向上を目指している。教師は、真の知識理解とは主体的に調べ、考え、他者に向けて発信・共有することで初めて得られるものであると考えている。またその過程で批判的思考・判断力も養成される。項目4で示した自由記述を含む評価の結果から、本授業の内容がカリキュラムに対して内容的に妥当性があったと結論付けることができると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	アクティブラーニングを軸とした本授業の進め方は、学生の評価からも効果的であったと言える。学生の自由記述から、授業形態も肯定的に捉えられており、本授業での発表に取り組むことで自身の関心のある事象に気付き、授業が学生の総合的な知的向上に寄与したことを示すのではないと思われる。 しかし、授業の質の評価はおおむね高いものの、教師への質問やコメントの機会がやや足りないという評価も1名あった。今年度も2学科合同のため学生数が60名とアクティブラーニングには多く、一人一人に発表させ、そのうち教師からの介入によって思考を深めるというプロセスが十分にできなかった。この点がうまくいっていれば少数の不十分な発表に終わった者も救えたかもしれない。短時間での教師の効果的な介入の仕方を工夫する必要があるかもしれない。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	前項で述べたように、アクティブラーニングを軸とした本授業は、ほとんどの学生たちが質の高い発表を行い、思考の深まりを見せた。本授業での発表に取り組むことで自身の関心のある事象に気付き、授業が学生の総合的な知的向上に寄与したことを示すのではないと思われる。 しかし、授業の質の評価はおおむね高いものの、2学科合同であるため学生数が多く、教師からの介入によって思考を深めるというプロセスが十分にできなかった点は残念であった。来年度は観光文化学科は開講されないが、今回の振り返りを英語学科での授業に生かしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英文講読Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教科書「Cultural Leaders in America Today 2」と「日本事象300選」は学科CPの英語・日本などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う教材として適していると思われる。教科書の難易度の観点から、和訳の予習は不可欠な為、準備した予習用紙を学生に配布し予習を徹底化した。予習用紙には単語欄と和訳欄と評価欄を設け、各自で予習用紙を作成するように指導した。また予習時における達成感および難易度を認識させるために、達成マークを評価欄に記入するように指導した。ちなみに達成マークはABC段階で表記した。この予習に基づき、授業において、予習した範囲の和訳を学生に発表させ、全員で確認作業を行い、和訳の修正および加筆を行った。この作業と同時に、授業では難易度の高い英文の文法解説、内容に関する補足説明を行った。予習用紙は毎回、授業後に回収し、各学生の学習意欲および理解度を確認する作業を行った。また学期末には完成させた和訳を全て提出してもらった。「日本事象」に関しては、予習として例文の暗記を指示し、毎回の授業で書きとりの小テストを行った。その際、事前に授業内で例文の文法や語彙の解説を行い、学生の暗記作業の効率化に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値(評価50点満点:評価構成は和訳25点と英作25点)は45点であり、再試対象者は0名であった。標準偏差値はSが9名、Aが3名、Cが1名であった。単位数の確保のみならず、関心のある内容である事、また英語学習に興味があることを受講動機に挙げた学生が多いことから、真剣に授業に取り組む姿勢が見られ、クラスの雰囲気も大変良好であった。DP上の各項目においても、高評価が多かった。これは予習のチェックを厳しくした為、自分なりの目標を認識できたためではないかと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性: 英文の精読や英語で日本の生活を説明するなど、洗練された英語のインプットとアウトプットは本科目に相応しい内容となっていることから妥当性は認められる。②DP、行動目標からみての内容的妥当性: 授業内容から学生には高度な英語力が要求されたが、DPの到達自己評価は平均値をはるかに上回る高評価であった。これは受講動機にみられるように、学生の関心度の高さと熱意の表れとみられる。和訳作業のみならず図書館、インターネット等を活用し、情報収集が必要であることはシラバスにも明記されているが、これらを活用した学生が僅かであった。オリエンテーションにおける、シラバスの説明の徹底化を図る必要性を感じた。学期末の試験結果と同様に、到達度自己評価が全体的に高い傾向にあるのは、内容への関心度、適切な課題量、授業における理解度等の要因が考えられる。またクラスの雰囲気も大変良好で、真面目に英語学習に取り組んでいた。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価： 予習の徹底化と提出の義務化を図ったために、大多数の学生が高い評価を挙げている。予習に力を入れた指導により語学学習における予習の重要性を認識できたことがこの評価につながったと考えられる。②学習量の評価： 予習範囲の提出を義務付けていたので、大半の学生が予習にかなりの時間を充てていた。③学習のための情報利用、図書館利用： シラバスの記載をほとんどの学生が参考にしてしたが、全員に周知するにはオリエンテーションにおいて、シラバスの内容を確認し、授業の進め方を確実に伝える必要性を感じた。図書館利用者は僅か2名であり、多彩な内容を英語で学習するためには情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	教科書の内容は比較的高いレベルであったが、全員が頑張って、予習を完璧に行っていた。語学学習は英語力や興味に差のある学生をまとめ、より満足度の高い学習を提供し進めるかが課題となるが、このクラスの場合は全員が英語力が高く、また真面目に熱心に学習に取り組んだ為に課題はクリアーできた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	村田 希巳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英文講読Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この学科は、まず、観光の基礎的な英単語を覚え、世界の観光地を学び、ビデオを見て英語で理解する授業である。学生は、教科書の説明文の読解とビデオを見てリスニングを強化するのが目的だ。Reading とリスニングの向上を狙った。さらに教科書は、必ず予習をしてくることを義務付けた。こうすることで、学習習慣を確立させ、授業内容を深く理解できると考えた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業の質の評価は、4. 3が多く、「説明は理解しやすい」が、4. 2だった。学習量の評価は、予習に2時間以上かけた人が、14人中11人もいた。復習の時間は、不必要と答えた人が多かった。かなりの学生が予習に取り組んだ様子が分かる。学生は、「楽しかったし、ためになった」「一番勉強した」と書いてくれたので、とても嬉しかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	単語のテストは10回行い、25点満点の内、平均が17点だった。本試験は、60点満点中46点でかなり高いが、やっている人と、やっていない人の差が見られた。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	DPは、4. 2点で、中央値は、平均4. 0点だった。自分の目標の達成度は、「わりに そう思う」が多く、まずまず達成できたようだ。最も高かったのは、「知識を 確認、修正でき、新たに得ることができた」と考えている人が、平均で4. 0 だった。中央値は3. 7だった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	これらも、楽しいがためになる授業、を目指していきたい。学生が自分の 実力に、プラスアルファが、身につけて行く授業を目指したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
旅行産業論	2・3・4	後期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は産業としての観光・旅行について考察していくものである。テキストとしてデービッド・アトキンソン『世界一訪れたい日本のつくりかた』(2017年、東洋経済新報社)を使用し、欧米と比較して日本の観光産業が抱える至っていない点、配慮の欠けた点などについて善処を検討した。これにかかり、以下の工夫をした。 ①自国や自地域のみにも留まっていると、課題や問題があっても、それらに気付かないことが往々にしてある。全員に用意してもらった上掲のテキストを基に、欧米の視点も含め、観光産業に対する合理的な取り組み・計画を検討することとした。復習はもとより、予習として予め授業で進みそうなところまで読んでもらうことで知識の定着を図った。 ②3回に渡ってレポートを課した。内容はすべてテキストの内容を援用した形で、自身の興味関心のあるテーマに向き合ってもらうものである。これらのレポートは概ね3回とも出してもらったが、単位を修得できなかった者を中心に、8名が2回以下の提出回数であった。3回とも提出した受講生については1名を除き、全員60点以上のレポート点を確保した(満点100)。これは人数にして34名であり、3回とも提出した者のうち、97%以上の割合を占めている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった			やや達成されなかった	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は43名であり、学年としては2名が4年生、4名が3年生、37名が2年生であった。このように、2年生主体の授業であったが、まだ思考してもらって授業に慣れていない者・グループも多く見られ、全体として「役に立つ」ような授業内容を期待していた節があった(後述)。 授業評価アンケート(回答者34名。以下同)によると、図書館の利用について、1名が図書・雑誌の利用をし、同じく1名がインターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった。CiNiiなど学術データベースを利用した者は0であり、図書館を利用した主体的な学びが行なわれていなかったことが示された。但し、CiNiiなどでの検索も含め、インターネットの利用については特に図書館を利用せずともほかの場所でもできることではある。 出席状況については皆勤が2名、1回遅刻が2名、1回欠席が13名、のように良好な者もいるが、5回欠席も4名(*6回以上欠席の2名除く)いた。但し、2-3回欠席の「平均的な出席者」も概して受講態度が芳しくなく、学ぶ姿勢に疑問を感じることも多々あった。全般としては各課題について最低限以上は取り組んでくれた結果、(欠席過多の2名を除き、)41名中35名に単位を付与することができた。内訳は「秀」7名、「優」4名、「良」15名、「可」19名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	すでに上記の4で示したように、2年生がメインの授業であったが、本科目の思考してもらった内容をあまり汲んでくれたとは言えないような形となった。 授業評価アンケートによると、「受講動機」(本項目の回答者32名)は「必修科目である」が14名(選択率44%)で最も多かった。次いで、「単位数を確保する」の11名(同34%)、「関心のある内容である」の9名(同28%)と続いた。受講者全員がアンケートに答えたわけではないが、概ね4-5割程度の者は必修科目だから取っていた・取らざるをえなかった・ことがわかる。 「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて2点台という結果であった(5点満点)。最高は「自分なりの目標を達成した」の2.5、ほかの項目はいずれも2.1-2.2であった。なお、8項目が1点とした者の人数がまったく同一(10名)であり、組織的な記入も考えられる様相である。 なお、授業アンケートの自由記述では「担当教員への意見」として見るに堪えない書き込みもある。「なんかうざい」を始め、感情的、誇張的なものも多い。自身や関係者が同じように言われたらどう思うかに考えの至らない内容である。このような内容は激しいものだけでも8名が記し、上述の10名との関連、組織的な動きが見て取れる。しかし、おそらくこの者達の不満は欧米による合理的な観光整備に対する日本の感情的な対応に対する論理的な批判が馴染めなかったのではないかと考える。こうした内容だったことで、これをそれぞれ「グチ」のように捉えたのではないか。しかし、批判的な見方、考え方は大学人として欠かせないもので、暗記やすべて・なんでもを良いとする内容では大学における学びとは到底言えないと考える。教員もわかりやすく教える努力をする必要はあるが、学生にも学びを学び取る姿勢を育てる必要があると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	授業で使用したテキストは日本に長く住む外国人の著者がアナリストの分析経験も活かして、日本の観光産業の現状について物申しているものであり、内容は合理的で、改善案なども示された、観光に関わる者として傾聴すべきものである。しかし、上述のように思考するトレーニングを行なってこなかった者にとってはいささか難しかったかもしれない。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケート(本項目の回答者34名)によると、予習時間は0が24名、30分～1時間が7名、1時間半～3時間が3名であった。毎回予習してくれていた者が10名いたのは心強い。復習時間は0が28名、30分～1時間が5名、1時間半～3時間が1名であり、予習をした者に比べると若干少ないが、誤差とも取れる。少しでも予習・復習に取り組んでもらいたかったが、実際に取り組んでくれた者は10名程度で、大半はそうでないことになってしまった。自発的に行なってもらえるよう、内容を噛み砕いておもしろさがよく伝わるよう努力したい。ノートは取った者が僅か1名であった。これはテキストがすでに重要な箇所は色が塗られているものであったなどの要因も考えられるが、もう少し取ってもらえればよりよかった。なお、授業の課題以外に学習に取り組んだとした者は1名であり、この点についても授業以外のことにも目を向けてもらえるようトピック等をより工夫するなどして努力したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果を見よう。5項目あるが、すべて2.0から2.4の狭い範囲の中に収まっている(最高点5)。2.4は、「期間内に行なうべき学習の範囲や課題は明らかであった」であり、次いで2.3として、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」である。ほか3項目はすべて2.0であった。しかしたとえば、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」などは(担当者のほかの科目同様)そうしていたにも関わらずポイントが相対的に低い(*たとえば「欧米観光文化地理Ⅱ」は3.3、「観光社会学」は3.2である)など、上述したように、何か実際・事実以外で不満があったのかもしれない。たとえば、以前の科目で単位を授与できなかった者(実際に受講生としている)や希望ではない成績だった者、あるいは単に生理的に合わない者が上述の10名程度を率いたなど。それはたとえば、この授業時間内に、3年生ゼミの説明会をわざわざ催していた教員が1名おり、複数の学生はそちらに参加、本科目には遅刻して来たが、「ゼミの説明会に行ったのに、遅刻になるんですか!」と強い口調で言ってきた者がおり、さらに、「皆さんが遅刻にもなってしまいまずし、なぜこの時間帯にそうした説明会をするんですかねえ」とした担当者の言及にも「ほかの教員への悪口」と捉えてしまったケースなどからしても推察できる。このように、冷静に合理的に解釈してもらえないような形も一部見られたのは残念であった。折に触れ、「皆さん、人柄は良く立派なのだと思いますが、それと、しっかり学んでくれたかは別のことからね。そこは切り離して受け止めてくださいね」と言っているのだが、なかなか響いていないようにも感じる。しかし、粘り強く説いていきたい。
-----------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ビジネス英語入門	2・3・4	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	インターネットの発達や世界のボーダーレス化に伴い、高度に情報化し、国際化した現代社会において英語は政治・経済・文化・外交などの諸分野で一層、大きな役割を果たしています。また企業の海外進出、海外の企業との合併、海外での子会社設立といった激変するビジネス社会に対応して、ビジネス英語のニーズも激増しています。このようなビジネス英語を取り巻く環境の変化、ニーズの変化は目まぐるしく、これまでのビジネス英語が取り扱ってきた対象を拡大する必要性が生じています。一例として、インターネット時代に入り、従来の手紙や電信・電話といった通信手段がEメールに取って代わることで、ビジネス英語のスタイルや構成にも変化が見られるようになりました。使用したテキストは海外の企業との取引をストーリー化したもので、実例を見ながら、実地に新しいビジネス英語のスタイルや構成を学んでもらうことに重点を置きました。ただ、ビジネス英語の基本は、日常の一般的な英語力であり、また初めての相手との会話や交渉に通じるエチケットやマナーや心遣い(これらを一般に「プロトコール」と呼んでいます)であるので、授業全般を通じて、英語力の引き上げと、ビジネスに直結する「相手に対するエチケットやマナーや常識的心遣い」を学んでもらうことを目標にしました。なお、使用したテキストは、出版社のホームページからすべての音声ファイルが無料でダウンロードできるので、必ず音声ファイルを手に入れてテキストと並行して音声面の学習が進むように配慮しました。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業中に2度実施した復習テストでは、いずれも15点満点で、クラスの平均点が1回目6点、2回目5点であり、目標にしていた7～8点を下回りましたが、いずれにも欠席による未受験者が数名いましたので、これらのクラス全体平均点への影響を差し引くと、概ね、設定していた標準点に近かったこと。さらには、学期末試験では、クラス平均点が70～80点になるように難易度を調整して作問しましたが、結果として、満点に近い高得点者と低得点者の間の得点差は大きかったものの、平均点としては、ほぼ75点でありましたので、これらを総合して、「やや達成された」と判断しました。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP,CP,カリキュラムMAPにおいて、本科目はビジネスの分野で求められる必要にして最小限の英語力の養成と同時に、ビジネスに必要なプロトコール(いわゆるエチケットやマナー)の知識とその実践を目指す科目として、妥当な位置づけであり、またDPIにおいても、「知識理解」と「技能表現」に位置づけられて、十分に適合していると判断します。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講生の中には、「必修科目」とは違って「選択科目」には「気やすさ」のようなものを感じるのか、学則で規定された欠席回数ぎりぎりまで欠席を繰り返したり、例えば「音声をダウンロードするように」と指示しても、最後までダウンロードしない受講生には、成績評価に反映させることは容易ですが、現実には、クラス全体の授業の足並みの問題から、欠席時の授業内容や小テスト未受験など、どのように当の受講生に対してカバーし、補償するのか、などの問題に至るまで、難しい問題が残されます。テキストの聴き取り問題として用意された音声ファイルは非常に聴き取りやすい平易な英文でしたが、音声を聴いても英文が聴き取れないという一部の受講生の意見を受けて、急遽、テキストに掲載されていない全音声のスクリプトを作成して、全員にプリント配布して、聴き取れない受講生が活字を見ながら、音声の確認が出来るように配慮しました。授業以前の問題も散見されますが、可能な限り、改善に努めたいと思います。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	例えば、英語力の涵養に不可欠な音声ファイルが入手でき、テキストと全音声と、その音声ファイルのスクリプトを配布することによって、意欲さえあれば、完全な学習が可能になっている今の環境を最大限に活用して、授業が終っても、さらに研鑽を積んで自らの英語力を強化して欲しいと願っています。すでに上記の「達成状況」ならびに「その根拠」の項目で「ほぼ達成された」と述べた通りですが、特に選択科目では現実の問題として、初回にはテキストを持たず、授業内容の確認に出席し、その後、受講を決めてからテキストを手に入れる受講生も少なからずいますので、限られた授業回数をさらに無駄にしないように、授業の内容や進め方も含めて、可能な限り、これからも創意工夫に努めたいと思います。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米観光文化地理Ⅱ	2・3・4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では欧米の中において特に東欧の観光文化地理について授業を行なった。東欧(あるいはさらにその各国、各都市の)観光文化、社会、地理などの形成と特徴について詳細に論じた。東欧は学生達にとっては西欧と比べあまり身近でないものである、少しでも知ってほしいというトピックを提供することにより、興味関心を喚起するよう心掛けた。授業にあたっては以下の工夫をした。 ①東欧については日本のメディアにもあまり取り上げられず、(特に世界史を学んでこなかった学生にとっては)あまり馴染みがないどころかイメージすらしづらいのではないかと考え、授業の前提として歴史や政治経済、社会についての概説を前期の「欧米観光文化地理Ⅰ」で取り上げた西欧よりも入念に行なった。 渡って中間レポートを課した。内容は東欧における観光事情についてであり、観光ルートの提案を示してもらうなど調べるだけでなく、考えてもらう作業も行なってもらった。レポート点の平均については60から95点までと差が生じていた(履修登録者18名中、両方を提出した16名。満点100)。 ③期末試験は論述形式のものとし(持ち込み可)、一定の時間内で授業で学んだ知識を活かして論理的・説得性のある文章を書いてもらうことを求めた。期末試験の点数については、6名が90点以上、3名が80-89点、4名が70-79点、3名が60-69点であった(出席状況により2名定期試験不適格者が出たため全16名。満点100)。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は全18名であり、学年としては4年生が2名、3年生が8名、2年生が8名であった。この科目と対になっている前期の「欧米観光文化地理Ⅰ」の受講者は8名であり、(前期が1限、当科目が2限であるなどほかの要因も考えられるが)倍以上の受講生となった。学生の授業参加度は人、あるいはグループによってかなりの差が見られた。積極的な学生もいれば、寝たり、スマホで遊んだりばかりの学生もいた。後者にもなるべくわかりやすく、興味が湧くように講義を行なったが、最後まで主体的な参加は見られなかったのが残念である。授業評価アンケート(回答者12名。以下同)の図書館の利用状況によると、図書館の図書・雑誌を利用した者、CiNiiなど学術データベースの使用をした者、インターネットを使用して検索などを行なった者、すべてで0名であった。この数値が物語っているように、中間レポートを2度課したが図書館の利用はされていないことがわかった。但し、成績的には全体として芳しく、自宅等で学修に取り組んでくれたのだと判断できる。 出席状況については、皆勤は0名であったが、第1講の「履修お試し期間」を除けば2名が該当した。その期間以外では1回遅刻が1名、1回欠席が2名、1回欠席1回遅刻が3名など良好な人達もいれば、4回欠席1回遅刻1名、4回欠席1名、2回欠席7回遅刻1名など芳しくない者もいた。また、6回以上の欠席で定期試験受験不適格となってしまった学生も1名出た。既述したように、本科目ではかなり人によって積極性に対する違いが出た。但し、提出物や試験の結果などすべてを考慮すると全体的には良好であった。単位は定期試験受験不適格者を除けば、17名中16名に付与することができた。内訳は「秀」2名、「優」7名、「良」6名、「可」1名であった。前期の「欧米観光文化地理Ⅰ」の「秀・優」が14%であったのに対し、本科目では53%にまで上がった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	すでに上記の4で示したように、授業参加度は人やグループによって大きな差が生じていた。授業は学生と教員双方の協力で成り立つものであるから、参加度が低かった学生にはもう少し努力をしてもらいたかった面はある。もちろん授業参加度が高かった大部分の学生は良好な成績を得ている。 授業評価アンケートによると、「受講動機」は「単位数を確保する」が9名で選択率75%、次点で「関心のある内容である」が5名で選択率42%であった。学生達には総じて単位が取りやすい教員と思われていないと考えるため、意外性があった。「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて3.1から3.5の間の評価であった(5点満点)。最高である3.5は「自分なりの目標を達成した」である。3.1であったのは「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」、「職業選択の参考になった」の3項目であった。このうち特に後者2項目は実学の科目でないためポイントが上がりにくいのは仕方ない面はある。前期「欧米観光文化地理Ⅰ」は3-3.4であったので、若干ポイントが上がった。なお、授業アンケートの自由記述では「担当教員への意見」として1名より「プライベートの話ばかり」と書かれているが、わかりやすい授業の一環として東欧におけるプライベートの話もしたが、そればかりでは当然ないし、また、なぜその話となっているのか、その話から何がわかるか、1名からとはいえ、考えて受講してもらえていなかった学生が出てしまったことは残念である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	授業で取り上げた東欧は学生達にとってあまり馴染みのある地域であるとは言えないため、上述の5のように、受講に当たってまずは単位確保という動機が先行していた。とはいえ、4割以上は「関心のある内容」ということで、そうした学生達は欧州という括りで捉えてくれたのかもしれない。総じてしっかりと授業参加をしてくれたと考えるが、一方で、どうしても参加度の芳しくない学生は少数ではあるが出てしまった。教員に対しても誤解から、あるいは、参加している学生とコミュニケーションが弾み、こちらを向いてくれないと感じるからなのか、上記5のような否定的なコメントも1名からあった。授業内容は本来、日頃の予習・復習は欠かせないものである。また、中間レポートも2度行っており、少なくともこの点では学修へかかる労力も少なくはなかったのではないかと考える。授業評価アンケートによると、予習時間・復習時間とも最多0で9名、ほか3名も30分であった。授業以外の課題の取り組みは「取り組んだ」が1名、「していない」が8名であった（3名無回答のため全9名）。日頃より（できれば自発的に）学修に取り組んでもらえるようさらなる工夫を考えたい。但し、ノートテイクをした者は8名（1名無回答のため全11名の回答）であり、73%であった。教員・学生双方の努力により、消極的な学生も巻き込んで、より白熱した授業を作っていきたいと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果が物語っている。5項目あるが、すべて四捨五入の3となっている（最高点5）。最高点は3.4で、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」である。最低点は3.2で「説明は理解しやすいものであった」であった。このようにすべて「普通」の評価しか受けられず、知的好奇心を充足してもらったとはまだ言えない状況であることは課題である。一方、前期「欧米観光文化地理Ⅰ」と比べると最高点は同じであったが、最低点は0.4ポイント向上した。今後とも継続してなるべく意見の出やすい雰囲気作りや視覚的にわかりやすいよう写真等を増やすといった努力をしたい。特に「説明は理解しやすいものであった」が最低点であったことを踏まえ、一部の者だけにわかりやすいだけでなく、学修にあまり興味のない学生にも振り向いてもらえるような説明、話題作りに真摯に取り組んでいきたいと考える。
-----------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
アジア観光文化地理	2・3・4	後期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 受講動機をみると「単位数を確保する」42.9%、「関心のある内容である」64.3%となっております。もっと学生の関心を引き出し、もっと多くの学生に履修してもらえるように、シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目にレポートを提出してもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.8点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては100%、意欲関心に関する問題は100%であった。それぞれの目標がやや達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館、インターネットの利用に関しては、それぞれ、10%、17%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「アジア観光文化地理」であるが、「海外研修」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.7である。次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「海外研修」をつなぐ要の位置にある「アジア観光文化地理」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、意欲関心を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
上級中国語	2・3・4	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門基幹科目にあたる上級中国語は観光文化学科における教育の骨格となる分野の科目である。特に中国語の能力の養成に重点を置く。具体的には中国語の会話、基本的文法の学習をした上に、基礎的な理解能力、表現能力などの総合能力の養成を目指した科目である。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的なレベルは13名となった。学習者による自己到達度評価において、10項目はすべて高かったと示されていた。授業の質評価において、5項目の内4項目は中央値は5、0と高かった。教科書や参考書などは丁度レベルにあったと示されていた。但し、学習量の評価において、自発的学習は16名の内10名が「していない」と記入していたので、次年度に学習量の改善に向けなければならないと思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、本科目は専門基幹科目であり、中国語通訳ガイド演習科目に繋がる科目である。学習者の総合的な視野と専門分野の理解に応えるので、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物等の評価基準は明らかであった」平均4、3とやや低かったが、「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「説明は理解しやすいものであった」などは高かったと示されていた。特に中国語で日記等を書く習慣となり、検定試験3級の合格者もいた。ただし図書館の利用とか自発的学習等の項目において、ほぼしなかったと記入されていたことについては、次年度に学習者に事前予習、復習を徹底するように促していく。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門基幹科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については、概ね達成出来たが、表現能力、総合的な応用の面では課題を残した。じっくりと復習する時間が少なかったため、次年度に提示、指導などでの改善を図りたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
上級中国語	2・3・4	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は中国語の上級知識を学習するものである。中国語入門・発展で習った知識を復習しながら、会話練習、作文練習することを通して、学習者に分かった、できた、通じたという喜びを感じさせ、中国語を話せる自信を付けていくことが、授業の実施にあたりもっとも大切だと考えた。今回の受講動機を見ると「関心のある内容である」は78.6%で、大多数を占め、到達度自己評価の(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができたの項目では平均値が4.1であった。この授業は成果があったと言える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は60以下は0名で、全員(途中放棄した学生を除く)が標準レベルに達したと言える。さらに理想的なレベル(おおむね80点以上)に達した学生は半数以上であったので、全体を通して、教育目標は達成されたと考える。 学生による「到達度自己評価」において、(2)の中央値は5で、その他の9項目の中央値はすべて4.0であったことから、教育目標を達成したと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容の妥当性 本科目は「総合人間科学」に属する選択科目であるが、観光文化学科の「専門教育科目ー中国語通訳ガイド演習や観光中国語など」の基礎となる重要な位置にある。しかし、受講者は「中国語通訳ガイド演習」や「観光中国語」を受講するつもりのある学生ばかりではない。受講動機は主に「関心のある内容である」であったので(78.6%)、中国語や中国に対する興味に答え、且つ専門的な知識も学べるように、中国語と日本語の比較、また中国文化・風習などを紹介するなどを取り入れ、授業を進めるように工夫した。学生はよい成績を収めていることから、内容的に妥当であったと考える。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 「成績評価」と「学習到達度自己評価」などの平均値から見て、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価を見ると(1)(2)(3)(4)の中央値は5で、(5)の平均値は4.2であることから、大多数の学生は授業の趣旨を理解し、授業の進め方を肯定し、真剣に取り 込んでいる。授業内容や進み方は学生に適していると考え。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「総合人間科学」の一科目として、それから「専門教育科目---中国語通訳ガイド演習及び観光中国語」を受講するに必要な予備知識としての本科目の位置づけか ら、基礎知識の形成についてはおおむね達成できた。 授業以外の学習方法の指導、とくに図書館の利用に関しての不足点は来年度も引き続き改善を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
エアライン英語	3・4	後期	選択	はい	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	エアライン英語は、ただ単に意味が分かれば良いというものではなく、その背景にあるさまざまな事情を知る必要がある。そのため、この授業では、航空業界の最新事情、航空会社のスタッフの仕事、航空機の構造などについても詳細に解説を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「秀」を取った学生が51人の受講生のうち、35名にもなった。毎回の授業態度は申し分がないほどであり、その姿勢が成績にもつながっているように思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目はツーリズムコースに位置づけられており、授業でも観光業界全体のことを触れるようにした。学生も観光業界における航空業界の特徴について理解が進んだようである。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	1人だけ「ゆっくり話してほしい」という要望があった。内容が専門的であるだけに、理解が進むよう今後は意識してゆっくりと話をするようにしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の学習効果が最大にまで達したと思われる。今後もこのような授業を継続したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
多国籍企業論	3・4	後期	選択	はい	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	今日の国際社会で注目され重視されている用語(例: サプライチェーン、CSR/ESG)がどのような意味を持っているのか、多国籍企業が日本や世界に与えている正と負の影響とはどのようなものがあるのか、ブランド力をもつ多国籍企業はどのようにしてそういう力を得たのかといった事柄を、馴染みのある企業(ディズニー、スターバックス、GAFA等)の具体例を通して理解してもらうことを重視した。また、この授業で得た知識や考え方が、就職活動に活かせること、社会人になってからも土台となる知識となりえることに言及して、学生の意識を高めることを狙った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・授業評価において、「自分なりの目標を達成できた」が3.6であるので、「全体を通して」は上記の通り「やや達成された」とした。「知識を…新たに得ることができた」が3.9、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が3.8であるので、「知識理解」は「やや達成」とした。「課題を検討する力」「的確に判断する力」を得ることができたが、各々3.7、3.6であるので、「思考判断」は「やや達成」とした。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」が3.7であるので、「意欲関心」も「やや達成」とした。 ・学生の成績については、期末試験の平均点が84.0 (n=52)、総合点の平均が82.0であったので、まずまずの理解状況であり、目標はまずまずの達成(やや達成)であったと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・人文学部と観光文化学科のDPにおいて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力」「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」「現代社会の実態と課題を学際的な視点でとらえることができる」「現代社会の様々な課題について、課題解決に向けて判断し、提案できる」「国内外の課題への関心と貢献する意欲をもっている」等が言及されている。本授業科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および上記の学生の目標達成状況、学生の一定の成績実績から、内容的にほぼ妥当と史料する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業で出てくる用語が難しいとの声は、授業期間中の質問・コメント票などでも伝わってきたので、承知しているが、初めて聞く言葉は概ね常に難しく感じるものであり、何回か聞いたり使っていくうちに馴染んでくるものとする。質問票で、特定の言葉の意味を質問してきたときには、翌週の授業で必ず回答、説明した。また、上記「大切にしていること」にて述べた通り、使える用語を増やしてほしいので、教材に出て来た用語は、カラーマークするなり、予習・復習するなりして、馴染み理解を深めてほしい。 ・学生からの意見は、授業評価には記されていない なかったもので、この点について記すことはない。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	上記3の大切にしていることについて言うと、馴染みのある多国籍企業の実例を通して、学生はもっと国際社会で起きている事や企業の行動に関心を強めてほしいと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
観光社会学	3・4	後期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会学の知識を援用し、観光について考察していくものである。観光社会学における専用テキストを使用し、観光社会学の歴史、対象へのアプローチ方法、さまざまな現代的な観光の事象に対する解釈等について講義を行なった。この科目にしても難しいのは多数決ではなく、理想について学生にわかってもらうことである。ここに気を配り、全員で考えた。これにかかり、以下の工夫をした。 ①「社会学」という科目がないため、まずはこの点について多少の時間を使い、説明した。本科目の教科書は、安村克己・堀野正人・遠藤英樹・寺岡伸悟編著(2011)『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房である。全員、用意してもらったのはもちろん、予習として予め授業で進みそうところまで読んでもらうことで知識の定着を図った。 ②2回に渡って中間レポートを課した。内容は教科書で興味のあるトピックについて深めてもらうものである。レポート点については及第とは言えない50から、満点に近い95点まで幅が生じた(満点100)。 ③期末試験は論述形式のものとし(持ち込み可)、一定の時間内で身につけた知識を活かして論理的・説得性のある文章を書いてもらうことを求めた。期末試験の点数については(持ち込み可ということもあるが)全員が80点を取ってくれた(満点100)。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は40名であり、学年としては5名が4年生、35名が3年生であった。このように、3年生主体の授業であり、すでに担当者のさまざまな授業を受けてきた中であるため、100%学術的な内容ではあるが、大きな無理解はなく、安定して授業が進んだ。 授業評価アンケート(回答者26名。以下同)によると、図書館の利用について、うち3名が図書・雑誌の利用をし、同じく3名がCiNiiなど学術データベースを利用、5名がインターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった。この辺りは学年も上がっており、積極性のある者とそうでない者の二極化が定着していることを考えさせられた。 状況については皆勤が3名、1回早退が1名、1回欠席が2名、1回欠席1回早退が1名と良好な者もいるが、5回欠席も4名おり、ここでも積極性に差が生じる結果となった。全般としては各課題や学期末試験も熱心に取り組んでくれた結果、39名全員に単位を付与することができた。内訳は「秀」5名、「優」12名、「良」15名、「可」7名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	すでに上記の4で示したように、3年生がメインの授業となり、学術に特化した内容ではあったが、担当者の特性も理解してくれているため、授業内容についても概ねよく理解してくれたと考える。 授業評価アンケートによると、「受講動機」(本項目のみ回答者25名)は「単位数を確保する」が16名(選択率64%)で最も多かった。次に、「関心のある内容である」が9名(同36%)であり、3名に1名以上は受講前より関心を持ってくれていたことがわかる。「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて3.2から3.5の狭い範囲内に収まっている(5点満点)。最高は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の3.5であり、やはり学術系の項目が相対的に高い結果となった。3.2であったのは「自分なりの目標を達成した」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の3項目であった。 このように、全般的に学生の理解がある上での授業であったため、授業を行ないやすかった。なお、授業アンケートの自由記述では「担当教員への意見」として「授業に関係のない話が多い」、「特別なゲストの講演に出席したら、この授業の欠席が1回出席になるのは意味不明」という旨の回答がそれぞれ1名からあった。前者は、より身近に感じてもらい、よくわかってもらおうと例え話などもしたが、その意図を理解してもらえていなかったと考える。後者は観光社会学にも関連する講演であるので、これに出席したら本講義を休んでしまった回について1回のみ出席扱いとするとしたが、理解してもらえなかったようである。誰にでも理解してもらえよう、今後ともわかりやすく説明したい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業で使用した教科書は研究者である大学教員が大半の書き手として執筆したものであり、内容はアカデミックなものであり、この点のトレーニングを行っていないかったり、無理解のまま来てしまった者にとっては難しかったかもしれない。しかし、大半はしっかりと取り組んでくれたと考える。 但し、授業評価アンケートによると、予習時間は0が20名、30分～1時間が5名、1時間半～3時間が1名であり、復習時間も0が21名、30分～1時間が4名、1時間半～3時間が1名であり、どちらも0が8割程度となった。少しでも予習・復習に取り組んでもらいたかったが、大半はそうでないことになってしまったため、自発的に行なってもらえるよう、内容を噛み砕いておもしろさがよく伝わるよう努力したい。 ノートは取った者が14名、取っていない者が11名と拮抗した（無回答1名）。この差が「秀・優」17名、「良・可」22名となって表れた蓋然性もあり、二極化してしまっている顕著な例とも捉えられる。なお、授業以外の課題に取り組んだとした者は0であり、この点で授業以外のことにも目を向けてもらえるようトピック等を工夫するなどして努力したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果が物語っているであろう。5項目あるが、すべて3.2から3.5の狭い範囲の中に収まっている（最高点5）。3.5は、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」と「期間内に行なうべき学習の範囲や課題は明らかであった」である。3.2となったのは、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」である。しかしこれらの差はあまりなく、どれも平均である3より少し良いくらいのポイントであったため、まずはなるべく4に近づけるよう説明を丁寧に行なうなどの努力をしたいと考える。しかし、本科目においては概してとりわけ問題となるような姿勢の者もおらず、3年間接してきた中で教員・学生の双方がよくわかっており、総じて充実した講義となったと考える。時に和気藹々と、時に緊張感を持って、各回の授業をしっかりと遂行できた。また後期の同科目に、よいところは繋げ、参加率が低調であるといった学生にはよくわかるよう丁寧な説明を心掛けるなどして向上させていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
映画で学ぶ欧米文化	3・4	後期	選択	はい	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学科名が観光文化学科でありながら、文化を学ぶことのできる授業は限られており、この授業を通してなるべく幅広く欧米文化について学習できるようにした。「映画で学ぶ」科目であり、映画の選択についてこれまでの経験から学生が不快に感じたり退屈したりしないように注意をした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された			達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	病欠欠席により単位を取ることができなかった1名の学生を除き、全員が単位を取ることができた。授業アンケートの自由記述に書いてある授業内容のコメントも好評価であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケートによると、授業外での学習が十分ではないようである。今後は授業を通して学生の興味や関心の幅を広げる工夫をしたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「声が聞き取れないことがあった」というコメントが1名の学生から出た。私があせって大量の情報を伝えようとした時に、このような感じる ことがあったのではないかと推察する。学生から指摘のあった声の大きさのみならず、話すスピードについても今後は気をつけたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の成績は半数以上が「優」が「秀」であり、学生たちはよく理解していたように思う。来年度はこの比率がもっと上がるように心がけたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心Ⅱ	3・4	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	This second term course focused on providing Tourism Department students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and a home stay family.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria passive participation 30%, class tasks 23%, class preparation 22%, and a final test 25%). The majority of students received scores in the 70s to 80s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took advantage of the opportunity to improve their skill set.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next academic year will include more focused class preparation assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	I am glad that the two departments each have their own class as this improves the learning opportunities for all.
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習Ⅳ	4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は英語通訳ガイドの資格を取得するのが第一の目的である。その一方で、これまでの経験上、受講生全員がそうした目的意識をもって履修しているわけではないことも承知しており、むしろ、通訳という分野自体に関心をもって受講したという学生が大半だった。そうした点をふまえて、本年度は通訳ガイドとはホスピタリティーをともなう仕事である点も考慮し、通訳ガイド的要素が求められるさまざまな職業でのリアルなやりとりを反映した教科書を使用した。また人数が少ない授業環境だったため、個々の学生と直接対話する時間をできるだけ多くとり、双方向性の高い授業を意識的に毎回行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった			やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前述のように、受講人数が非常に少なかったため、学生ひとりひとりの学習意欲や技能を毎回確認することができた。平素の授業での挙手発表では20点満点を超える平均22.9点であった。しかしながら、筆記試験の平均値は、中間試験では30点満点中18.7、定期試験では50点満点中31.3と学習した内容が試験に結果として反映されていなかった。また事前のアナウンスにもかかわらず、中間試験を無断欠席した学生もあり、授業外での学習意欲に改善がみられなかった点が筆記での数値に出ていた。点数としては合格ラインを超えてはいるものの、受動的な学修態度が影響した点は否めないため、細やかなフォローが必要であると再認識した。以上の数値データにより、本科目の教育目標はやや達成されなかったと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英語通訳ガイドを含めた通訳という職業（会議通訳者、放送通訳者、同時通訳者、ボランティア通訳者など）は、言語という技術を駆使する専門職である。したがって、ある程度の英語力が備わっていることが前提で、その技術を現場で瞬時に最大限活用できるかどうかで仕事の評価が決まる。よって、DP5が示す技術表現と本科目は最も重要な接点であるといえる。学生の到達度自己評価において、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、について意見が半々に分かれていた。これは受講者間で科目に対する意識に差があり、それが試験の結果にも影響していると思われる。このことから、内容的妥当性は十分とは言わないまでもある程度確保されていると思われる。また、DP3の内容関心についても、授業評価における受講動機で、③関心のある内容を半数が選択し、一方で単位数や友人が履修しているなど担当教員からみると幾分消極的ともいえる動機で受講している学生もいたことから、本科目の位置づけ上内容的にやや妥当という判断に至った。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの自由記述で、学習量の評価項目に対して、「いそがしい」という回答があった。1名を除いて全員が就職内定を得ていたため、残された学生生活において優先度の高いものに時間をかけたのだろうと推測される。受講生が4年という点を意識して、通訳の現場を含めたさまざまなビジネスの世界で起こっていることや自らの経験を授業の中で紹介したことは一定の効果があったものの、それが本科目の学習意欲向上に必ずしも結びつかなかった。その一方で受講生間で英語力に差があった点も事実で、本来の通訳ガイドという科目に即した授業が十分にできたかというやや疑問の余地が残っている。今期の受講生はそうした通訳トレーニングを頻繁に行う以前の段階であったように思う。したがって、受講者数とそれにマッチした授業展開をいかにバランスよくとっていくかが、今後の課題といえる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	教育目標、内容的妥当性などの点では、概ね望ましい結果が得られている。しかしそれらは、これまで比較的少人数のクラス構成であったがために達成できたのかもしれない。今後の履修状況にもよるが、受講者が増加した場合は、これまでとはちがう授業アプローチが求められる。また、英語通訳ガイドという資格を取得するという目標達成のために受講する学生も当然存在するであろう。そうした点もふまえて、ガイド試験の傾向と対策、学生の受講動機の把握、ニーズ分析などを的確に行いたい。またタームの途中で、授業に関するコメントを求め、寄せられた指摘・要望については適宜修正・調整を行いながら、満足度の高い授業を展開していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
旅行商品企画論	2・3・4	後期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「関心のある内容である」63%、「単位数を確保する」47.8%となっております。もっと学生の関心を引き出し、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の9回目、10回目にグループごとにフィールドワークを行い、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.7点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては63.6%であった。目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、7.5%で、インターネットの利用に関しては、27.2%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「旅行商品企画論」となっており、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成を勉強しているので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が65%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「旅行商品企画論」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
イベント・テーマパーク論	2・3・4	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ツーリズムおよびビジネスの両コースに関連する科目である。そのためシラバスでもマーケティング関連科目、観光関連科目の積極的履修、あるいは履修していることを推奨している。この科目で両コースを選択している学生にとって関心のある科目のため、イベントの視点から地域活性化と観光の視点からのテーマパークを理論的、実証的に理解することを主眼としている。そのため北九州市内のテーマパーク運営会社の協力のもと、グループワークによる企画プレゼンテーションを取り入れてより実践的に理解できるよう工夫している。授業テキストは特に用いず、担当教員の作成した配布資料で進行しているため特に予習は課していない。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの到達度自己評価と授業の質の結果によると上記目標達成状況は「やや達成された」が妥当と考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの受講動機と学習到達度の自己評価(1)(2)からDPとの内容的妥当性はあると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	毎週軌道修正しながら授業進行したが、内容的に外部講師授業やワーク ショップ形式授業を増やし、学生が積極的に学ぶことが可能な授業環境 づくりの検討が必要である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標はやや達成されたと思われるが、科目性格上、理論の理解のみならず外部講師授業、ワーク ショップ等の導入による実践的理解の向上を目指す。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語通訳ガイド演習	3・4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門展開科目にあたる中国語通訳ガイド演習は、観光文化学科における教育の骨格となる分野の修得を深める科目である。中国語通訳ガイドの力の養成に重点を置く。具体的には中国語通訳ガイドの基本的技術を学習した上に、基礎的な理解能力、表現能力、翻訳技能の養成を目指した科目である。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的なレベルに達したが、理想的なレベルに達したのは50%となった。学習者の到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることが出来た」は平均値3.9とやや低かった。学習による授業評価においては5項目平均値4.4と高かったと示されていた。自発的学習や図書館の利用などにおいては少なかった。次年度改善を行いたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、マップ上の位置づけから見て、本科目は専門展開科目であり、中国語通訳案内士などの資格試験に対応する科目である。学習者の総合的な視野と専門分野の理解に応えるから、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において5項目の平均4, 4と高かった。但し、自発的学習や図書館の利用が非常に低かった。次年度に向けては改善し、事前に復習、予習するよう促 していきたい。学習者は自ら中国を訪れたり、中国への興味が湧いたと示されていた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門展開にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成について概ね達成できたが、表現技術の面では課題を残した。じっくり復習時間が少なかったため、復 習課題及び自発的な学習の提示などで改善を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ビジネスファイナンス	3・4	後期	選択	はい	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施に当たり大切にしていることは、第一に、数字を遠ざけるのではなく、ビジネスにおける数字の大切さを認識してもらいたいということである。数字を使ってモノを言うと、力強い裏付けを得て、発言に説得力が出ること、決算書の数字を読めると、企業（自分の就職先など）の健康状態を知ることができるなど、学生自身の大きな力になることを知ってもらうことである。第二に、金融関係への就職を考えている学生にとっては、企業側から求められる資格（証券外務員やファイナンシャルプランナー）取得につながる学びとなることを知ってもらうことである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・授業評価において、「自分なりの目標を達成できた」が3.9であるので、「全体を通して」は上記の通り「やや達成された」とした。「知識を…新たに得ることができた」が4.2、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が4.0であるので、「知識理解」は「達成」とした。「課題を検討する力」「的確に判断する力」を得ることができたが、各々3.9、3.8であるので、「思考判断」は「やや達成」とした。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」が3.9であるので、「意欲関心」も「やや達成」とした。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は3.6であるので、「技能・表現」は「やや達成」とした。 ・学生の成績について、期末試験の平均点が70.3 (n=37)、総合点の平均が74.1であったので、まずまずの（悪くはない）理解状況であり、目標はまずまずの達成（やや達成）であったと言えよう。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・人文学部と観光文化学科のDPにおいて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力を身につけている」「社会に対応する基礎的な知識を修得している」「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」「現代社会の実態と課題を学際的な視点でとらえることができる」「現代社会の様々な課題について、課題解決に向けて判断し、提案できる」「国内外の課題への関心と貢献する意欲をもっている」等が言及されている。本授業科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および上記の学生の目標達成状況、学生の一定の成績実績から、内容的にほぼ妥当と史料する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業で出てくる会計用語や外国為替の差損・差益などが難しいとの声は、授業期間中の質問・感想票などでも伝わってきたので、承知しているが、初めて聞く言葉は概ね常に難しく感じるものであり、何回か聞いたり使っていくうちに馴染んでくものとする。質問票で、特定の言葉の意味を質問してきたときには、翌週の授業で必ず回答、説明した。また、上記「大切にしていること」にて述べた通り、使える用語を増やしてほしいので、教材に出て来た用語は、カラーマークするなり、予習・復習するなりして、馴染み理解を深めてほしい。 ・また、特に、決算書を読む財務分析については、学生にとって初めての取り組みであり(社会人でも知っている人が必ずしも多くない技能であるので)、難しいと感じたかもしれないが、実際に同業2社を比較分析する課題に、模範レポートを見ながら取り組むことによって、理解を深めたものと考えている。従って、これまでの進め方を大きく修正する必要はないであろう。 ・なお、よく理解していない学生は来室してほしい、個人指導したいと授業で伝えたが、一人(4年生)が来たのみであった(それで、その学生は理解を確実なものにした)。来室を促す工夫は、成績アップ、基礎的な理解を向上させる上でもっと必要だったかもしれない。 ・学生からの意見は、授業評価には記されていなかったもので、この点について記すことはない。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・総合的には、上記の通り「知識」4.2、「視点や考え方」4.0との、思った以上に高い学生の到達度自己評価を得られたことは、大変喜ばしい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ブランド戦略論	3・4	後期	選択	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ブランド戦略論は、企業マーケティングの重要な要素であるが、本学科の旧カリキュラムには「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが設置されていない。そのため企業経営におけるマーケティングおよびブランド戦略の役割の理解に重点をおいている。また、ブランドへの興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用している。学習準備性については、上述のように企業経営を学習したことのない学生にマーケティング、ブランドへの興味・理解をさせるために新聞広告、CMなどの広告に慣れ親しむ事を学習準備として示している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	上記授業準備で述べた通り、体系的なカリキュラム構成による「経営におけるマーケティングの理解が困難なため、あくまで「マーケティングにおけるブランドとは何か」への興味を促進することが大きな目的であるため、映像、ビジュアルなど多用しているが、アンケート内容から達成されたと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できるが、基本的問題としてマーケティング、ブランドの基礎知識としての経営学を学んでいないという、カリキュラム体系上の欠陥から精緻に評価できないが内容妥当性の面では達成できた。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	外部講師授業の導入、グループワークの導入など授業の進め方については問題ないと考えているが、ディスカッションを取り入れ、コミュニケーション力、表現力等の養成も検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	科目目標はやや達成されたとと思われるが、学習量が受講生に多くいるため課題、レポートなど工夫したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	若菜 啓孝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
マルチメディアツーリズム	3・4	後期	選択	はい	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	これまで観光コンテンツづくりは第1種・第2種旅行業中心であり、「発地型旅行」が殆どを占めていたが、「手配する方法」「現地で活用」「旅行者同士で共有」などの場面で、インターネットが活用され、旅行者の観光行動も大きく変化している。さらに、これらの観光情報はブログ作成などにより個人で発信することも可能となり、観光分野におけるICTの利活用は必須のものとなっている。よってこの授業では「観光情報学」「地理情報学」の観点で、授業展開を行うものとし、これまで学んでいる旅行関連の科目を中心とし、ICTの活用方法に興味を示し、さらには、グループで制作物を作成することにより、コミュニケーション能力の育成もできるように授業を組み立てた。昨年度より、アイデア発想法のひとつであるマンドラートを各個人の考えを伝える道具として利用しグループ課題に取り組んだ。また授業資料に関しては、LMSを利用した資料の提供、振り返りシート、課題提出を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①SやAに相当する学生数は50%程度、Bに相当する学生は23%、Cは25%程度となっている。これらの成績は前年度の学生の状況を鑑み、基準を設けたものであるが、授業内で提出できる課題の割合も多かったこと、今年度はコーディングが比較的簡単なツールに変更したことにより、昨年度と比較して課題の提出率はよかった。 ②成績と受講動機が結びけられないための仮説となるが、単位修得だけを目的とする学生ほど欠席がちであり、各回の授業進行に追いつかない状況にあること、課題提出状況が芳しくない傾向にあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上からの内容的妥当性 これまでに学んだ観光関連科目、情報科目の両方を兼ね合わせたものであり、内容的には妥当である。 ②DP、行動目標からの内容的妥当性 意欲関心の面では、一般生活および観光関連で利用しているIT技術などに興味を持たせることができ内容的には妥当である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①最終課題はグループで作品を提出させることにしており、昨年度に比べ1ヶ月ほど早めに案内し、さらには、昨年度の作品を紹介するなどを行った。 ②①に関しては、早めにグループ作りを行わせるようにし、かつマンダラートによる自身の考えをまとめさせ提出およびグループでの制作に役立てた。 授業後半ではコーディング作業など、自主的に行う時間を増やした。 ③授業進行はできるだけゆっくりと行ったため、毎回のリフレクション調査でも殆どの学生は時間内に理解できたようである。前の回に欠席した学生にとっては進行が早く感じられ、その対策も必要となる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	毎年のことながら、興味関心を示す点では達成できた学生は多く見られたが、後半のHPのコーディングにおいては進行について来れない学生が出て、最終のグループ課題のでき具合に影響が出ることもあり課題を残した。また、個人のレポート課題に関しては、時間内に提出可能なものも多く昨年度に比べて、提出率は向上し良好だったといえる。ただし、反面、授業外学修時間が低減したと思われる。また、提出課題のみで、発展・応用する学生の数を如何にして増やすか工夫がさらに必要である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
航空産業論	3・4	後期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 毎回の講義の前に、前回の内容の振り返りを行い、再度、重点項目の確認を行うようにしている。 2. 適宜、受講生が達成すべき行動目標を確認している。 3. 次の講義範囲を示し、テキストを読み込むよう指導している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. DP1の自己評価において、95%の学生が知識の確認、修正を行ったり、新たに得ることが出来たと評価している。特に、30%の学生が評価が高かった。 2. 自分が学ぼうとしている専門分野の知識を深める意欲を持つことが出来たと評価している学生が95%と高い評価をしているのは、受講動機の半数に近い学生が単位数の確保を上げていたが、その大部分が単なる単位取得ではなくて来たことからもうかがえる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・航空業界は、今やサービス業の範疇と考えられることから、学際的な知識の習得や人格形成が望まれている。その意味からも、本講座では、人と接する際の臆しない対応のための知識、人間力をつけさせ、垣根を越えた人格形成の場(科目)であると思っており、学生も職業倫理や行動規範について学ぶことが出来たと高い評価をしている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	・航空業界は、今やサービス業の範疇と考えられることから、学際的な知識の習得や人格形成が望まれている。その意味からも、本講座では、人と接する際の臆し ない対応のための知識、人間力をつけさせ、垣根を越えた人格形成の場(科目)であると思っており、学生も職業倫理や行動規範について学ぶことが出来たと高い 評価をしてくれている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・学生の意見から、少しも聞き逃すまいとの意欲が感じられ、大変励みになった。授業の進め方については、テンポが速いとの意見については、新たにテキストを指 定し、事前学習により、要点把握ができるようにして対応したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ホテル・ブライダル論	3・4	後期	選択	はい	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業では、ホテルとブライダルの両方を学ばなければならないため、両者のバランスをとるように心がけた。さらに、「宿泊産業論」で取り扱っている内容と重複しないようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生51名中35名が「秀」が「優」の成績であり、授業内容をよく理解していることが分かった。授業態度も良く、真剣に授業に向かう学生の姿が素晴らしかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自ら学んだという積極的なコメントがないため、今後は課題などの提示を積極的に行いたい。ちょうどバランスが取れるようにホテルとブライダルの授業すみわけができたことが良かった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	業界でのマナーについて学べたことが良かったというコメントがあった。実は、この授業ではそれほどの重きを置いていない分野であったので、意外な反応と言える。 今後は、そのような意見を参考に、もっとマナーについて時間を割きたいと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業態度が良く、それに比例して成績も良く、授業としては問題がなかった。今回は、教員からの一方的な講義という感じであったが、今後は学生が授業に参加しているということが実感できるような進め方をしたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習ⅠB	2	後期	必修	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学年を二つに分けて、二人の教員がそれぞれのクラスを15回担当している。シラバスを共通化した。テキストについてはそれぞれの教員の判断で決めた。このクラスでは、一年前期の演習研究必修クラス「基礎演習A」のテキスト「知へのステップ」の内容を継続するものとして、「よくわかる卒論の書き方」を利用した。これは4年間の演習研究の授業の枠組みの中で、2年後期に位置する授業であることを踏まえて、3年次以降のどのゼミ(専門演習Ⅱ、卒業研究)へも円滑に進むことができるように、ミニマムエッセンシャルの技能知識獲得にも合致する。昨年度には、PPTを利用し、そのすべてではないが、配布資料として準備もした。しかしながら、資料を配布すればするだけ、学生はノートを取らなくなるので、ノートテキングのスキル向上をさせることとの兼ね合いを考えて、PPTの配布資料を作る必要があるとする改善計画を立てておいた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①33名の採点対象者の全体の成績評価の内訳は、A9名、B15名、C3名であり、それだけで81.9%となる。レポートで、三段構成と参考文献の示し方については重点学習事項として繰り返し指導した。最終的な提出物(レポート)では、提出者の95%が、これらのことを理解していたことが確認された。② 教員側の評価と学生の自己評価が大きく異なっている。①だけで判断すると、「(1)教育目標は達成されましたか」については、「(やや)達成された」とできそうであるが、7の総括的评价に記載したように、学生の自己評価が極めて低いことから、「どちらともいえない」となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①受講動機は、「必修科目であるから」と「単位数を確保する」で、100%である。必修科目であり、外圧からの外的学習動機である。②演習研究科目としては、次の学期(3年前期)からは各ゼミに所属して、専門性の高い演習研究をすることになる。③カリキュラムマップ上、この科目はその直前の科目であり、一般的な内容の演習研究科目の最後に位置づけられるに当たっては妥当な配置である。④2年後期に学習しておくべきDPについても、知識理解、思考判断、技能表現であり、妥当なDPをカバーしている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	授業評価では、5.情報利用(シラバス)の活用についての結果が今後の指針を与えてくれる。(1)この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にしたについては、参考にしなかったが21名、参考にしたが4名である。授業評価回答者中の84%が、シラバスを参考にしていなかったという結果です。これについての改善方は初回のオリエンテーションで印刷して配布して読み合わせをすることになります。課題が多すぎるとの意見もありました。シラバスには大まかな進行の予定の記載はあるが、それを実現するための細かい提出物等があります。改善方策として、課題を精選して提出物を減らすことになります。課題についてよくわからなかったとの意見については、学生にわかるように繰り返し丁寧な説明をすることになります。この授業のように二人の教員が別々に授業を行う必修科目は、学生に選択権を与えるべきだとの意見がありました。二つの授業を別々に開講する場合には、同じ教員が担当すべきだとの意見もありました。実際にその方式で対応している授業もあり、それは担当者の判断ではなく、学科の判断が必要ですが、傾聴すべき意見であると考えます。要領が悪いとの意見に対しては、配布物の配布方法、PPTの利用方法、説明の要領が悪かったのだと思います。改善方法として、配布物と課題を減らすことを目指し、わかりやすい説明を心がけたいと思います。提出物について、紙の無駄との意見がありました。学生の発表に対する評価方法として、学生の相互評価を紙で行いました。この部分が紙の無駄と思えたのだと思います。今後はこの評価方法をやめるか、回数を減らすことになります。全体的には、課題を精選して提出物を少なくすることになります。いろいろなご意見をありがたいと思います。課題の重さに対しての評価が少ないとの意見をいただきました。それぞれの評価は評価全体を見る必要がありますが、重い課題については評価割合を高くするように評価のバランスを再考することになります。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①授業評価では、全体として非常に厳しいものでした。3. 授業の質評価では5項目の平均は、1.6という数字であり、極めて低い数字が出ました。昨年度は、すべてにおいて3.4以上でした。目の前にいる学生を見ることが大事であることを再認識しました。同じ授業でも学生は毎年変わるのであり、前年度にうまくいったことが次の年にうまくいくとは限りません。柔軟に考えるべきだとの意見もあり、そのことを指摘してくれました。全般的に極めて低い評価をいただいたことを真摯に受け止めます。また様々な意見をいただきましたことを感謝したいと思います。②別々の二人の教員がそれぞれ15回を担当する授業であり、共通シラバスが原則であり、それに基づいて授業を行うことが必要です。授業について学生側から見て、異なりが大きい場合は不満を呼ぶことになります。全く同じ授業を展開することは困難ですが、評価を含めて授業の内容をある程度の共通化をすることが必要です。シラバスを授業で実際に運用する際に微調整する柔軟さをもちたいと思います。③「学習到達度の自己評価」の10項目では、最高が「自分なりの目標を達成した」が2であり、最低が「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が1.5です。このように極めて低い自己評価でした。理解されるように今後は丁寧な説明をするようにします。二人の教員が別々に行う同一名の授業では、授業内容にあまりにも大きな違いがないようにするため、シラバス作成の段階に加えて、授業が開講されている学期中の情報交換も必要だと考えます。
-----------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習ⅠB	2	後期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目においては、社会(経済産業省)から大学生活で養成すべきと言われる「社会人基礎力」の3つの要素「前に踏み出す力」「考えぬく力」「チームで働く力」を基礎として特に論理思考性の向上を目指した内容構成とした。具体的構成としては、毎回学ぶべきテーマを設定、学生生活を中心にストーリー展開されたケースを読み込み、学生自身の考えをまとめさせ、さらにはグループでテーマについて議論、それぞれ発表させる内容とした。授業資料は毎回教員が作成した資料をもとに進行させた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケート結果及び教員独自で作成した授業に対する意見シートに基づいて評価すると妥当である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケート内容、自由記述などを分析しても内容妥当性のあるDP、CPの達成は妥当である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	内容、進行について特に改善点は認められないと思われる。
--	------------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業評価アンケートの内容を見る限りでは内容構成など特に改善点は認められないと考える。来年度は本年度内容にさらに専門演習Ⅱの学習・研究に結び付けられるような新しい内容を盛り込むことを検討する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①演習研究科目の総仕上げである卒業研究で卒業論文を書くことを次年度に備えての授業となる。基礎的な文献を読むことができる力を養い、自主的に課題を見つけてその解決方法を見出す取り組みができるように課題を出した。授業評価の回答者総数は4名で、②受講動機は、「必修科目であること」が75%、「関心のある内容である」が50%、「単位数を確保する」が25%であり、動機づけとしては外圧的な動機の方が大きい。③到達度自己評価には、(1)～(10)のどの項目でも、「②少しそうでないと思う」以下の選択は一人もいない。学生は学生なりに到達目標を積極的に設定していたものと推定される。その中の項目の一つ「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は5であり、大いに肯定的にとらえていることがわかる。④授業は基本的には、基本的な英語の文献を輪読することであり、学習準備ができやすいように設定した。担当ページのノート提出者が、輪読発表の司会も担当する者であり、学生の準備性が授業の成否を左右するという高い意識をもてるようになっていった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①全体の成績は、A1名、B3名、C1名である。②新聞の社説をペン書きで写したり、要約する。新聞社の読者の声のコーナーに投稿するという主に授業外の活動を4年の7月まで続けるという計画を3年最初に説明して、継続的に行ってきた。投稿については何を書いていいのかわからないとの相談もあった。それに対しては新聞を読むことから始まることを伝えた。慣れるに従い、確実に思考力が伸び、それを具体化する論理的な表現力も伸びてきている。それは、新聞の投稿の採用率が、クラス全体としてはおそらく18%ぐらいであろうことから証明される。例えば助詞、句読点の理解についても、拙さが残る文章から、論理的に説得力のある、読ませる文章を書くことが次第にできるようになってきており、着実に伸びてきている。新聞・雑誌を読むことを投稿の前提としてたので、その一助として図書館での朝日新聞のデジタル版の利用方法を、実際に図書館で説明した。アンケートの6図書館利用では、「(1)図書館の図書、雑誌を利用した」について、3人が利用したと回答している。これまでの授業でも文献検索を学んでいるはずだが、実際に全員を学内で図書館HPから体験させると、効果は大きいと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①演習研究科目の配列内での3年目の科目としての位置づけとして、合理的な配置だと考えられる。2到達度自己評価では、10項目すべてが、平均値4以上であり、全体の平均は4.43である。自己評価はかなり高いと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は、5項目全てが4.8であり、学習量の評価は、「(1)授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどれくらい行いましたか」に対しては、③2～3回が3名、(2)授業に参加するために、1回30分程度以上の復讐をどれくらい行いましたか」に対しては、③2～3回が2名であり、授業の持ち方としては甘いと思われる。これに対する改善方策としては、教員の一斉指導の割合を次第に減らしていき、学生の自主的な取り組みの成果を見せる部分を更に大きくすることを目指したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①3年次の通年の演習研究科目としては、現状の内容をどのように具現化して、定着させていくのかが、大きな課題ではある。②学生にDPの1～5をすべて学ばせるためには、論理的な文を読ませて、まとめさせ、それを発表させ、議論をさせる機会を増やすことになる。③4年次の卒業研究との関連であるが、4年次には特に前期の最初に卒論についての全体的な指導をする回での出席率が就職活動と重なり、全員が揃うことが難しくなっている。それを補うために、通常4年次に行っていた卒論についての全体的な指導を、3年次後期の最後の数回の授業を使い、行う必要があるのかもしれないと考える。しかしながら、そのように教育内容の前倒しをする際に、それを受け入れるほどの学生の準備(DP1～5にまで全てに関わる)が整っているかどうかは、見極める必要がある。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・大切にしていることは、なぜそう言えるのか、それはどうということなのか、といった質問する力、物事を掘り下げる力を付けてもらうこと、また、経済社会でよく使われる用語や最近起きている事象の意味を、文章や論文を通して理解してもらうことである。また、3年次後半に出てくる就職活動を意識させ、それに向けて知識や表現力などのスキルを向上させることも重視した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・授業評価において、「自分なりの目標を達成できた」が4.4であるので、「全体を通して」は上記の通り「達成された」とした。「知識を…新たに得ることができた」が4.5、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が4.3であるので、「知識理解」は「達成」とした。「課題を検討する力」「的確に判断する力」を得ることができたが、共に4.3であるので、「思考判断」は「達成」とした。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.3であるので、「意欲関心」は「達成」とした。「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)」について学ぶことができた」は4.3であるので、「態度」は「達成」とした。また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.4であるので、「技能表現」も「達成」とした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・本科目は、4年次「卒業研究」につながる問題意識の醸成を得るための、知識探求力(質問力)、論理構成力、表現力などの向上を図るものと位置づけられる。3年次の私のゼミでは、長い論文は書かせなかったが、新聞や論文を読んだレポートや、学生間の討論を用いて、上記DPの達成に資するところがあった。従って、内容的にはほぼ妥当であったと料する。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	上記5に記した通り、進め方についてはほぼ妥当と考えている。上記3で述べた通り、3年次としての知識向上に力を入れたので、授業中の手応えはさほど強くなかったものの、上記4に記した通り、学生自身は知識面の向上を自覚していたようで、その点は好ましいことと思う。改善課題としては、複数のゼミ生に遅刻が多く見られたので、ルール順守は、就活を展望しつつ、もっと厳しく指導する余地はあったかもしれないと思っている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	上記4の通り、DP各項目について「達成」としたが、学生自身の改善への自覚を向上させる余地はあるので、(私の退職により4年次の指導はできないが)4年次での各自の取り組み意識、特に、卒論への取り組み意識向上に期待したい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ゼミ生はゼミ募集時のアカデミックな授業に大きな期待を持ち、かつ特に優秀な学生が集まっており、その期待に応えるようなレベルの高い授業を目指した。その一例として毎回、欧米の研究者の有名な理論研究を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎時の学生のレポートやプレゼンテーションはよくできていた。しかし、学期最後のレポートは指導したことが抜け落ちていた学生も多かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	他の科目で学んだ知識がこの科目で活用できるように、しばしば他の科目との関係を分かりやすく解説をしたため、学生もそれをよく理解していた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業で取り上げる課題が多かったため、それぞれの課題にかかる時間が少なく、消化不良という感じだった。次からは課題を精選したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	全体として計画通りの授業ができた。次年度は、課題を精選し一つ一つの課題にじっくり取り組みたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①専門演習Ⅱは4年生の卒論研究教育への円滑に行うための研究演習教育として位置づけられている。まず視野の広げ、考える力、判断力、分析力の学習方法を身に付けてもらう。ゼミに所属して、専門的に学ぶ。「研究」「多読」「レポート作成」「文献の探し方」「発表」などにより実践的な力を身に付けることを目指す。②異文化、地域社会への関心及び貢献できるように、外国の総領事館や企業、放送局などの訪問を通して現在社会の動きを把握してもらう。③昨年度までと同様、授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを実施した。学習者の関心事を再確認した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として総合的に判断作成)に達したものは4名と限られていた。目標別に見ると知識理解、思考判断に関する問題は自己評価にあまり差がないことが示された。但し、					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見るの内容的妥当性、本科目は専門演習科目である。卒業研究を繋ぐ要の位置にある。内容的に妥当であると考え
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表する」など、学生が参加する機会が設けられていた」等の項目の平均が3.7～3.9とやや低かった。学校外への実践の時間が想定より少なかったことも反省点である。学生の意見として、ゼミでの課題活動を後期になって初めてして、学校または知識で知れなかった部分を見て学ぶことが出来、今以上にその活動をしていきたいと思いました。という担当教員への意見があった。これは次年度課外活動等を取り入れていきたい
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門演習Ⅱは専門的知識の形成、考える力、判断力、分析力、実践力の養成に重点を置いており、概ね達成できたが、ゼミの担任として常に綿密に連絡し、指導をしっかりとる必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「必修科目である」100%「関心のある内容である」14.3%となっているが、他の項目は0%となっており、履修者が「専門演習Ⅱ」では、何を学ぶかについて、まだよく理解できていないことが分かる。シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。 ②最初のゼミにシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③月に1回程度、卒論の発表をしてもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。 月に1回程度、就職の指導を行い、学生の就活に役立つスキルを伝授した。 ④
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は96点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%、意欲関心に関する問題は100%、態度に関する問題は100%、技術表現に関しては、100%であった。それぞれの目標がやや達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現の観点での自己評価に差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、28.5%で、インターネットの利用に関しては、42.8%となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門演習Ⅱ」であるが、「卒業研究科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、各項目については、評価が良かった。特に「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し 合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の評価は良かった。次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加できる機会・環境を作っていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「卒業研究科目」をつなぐ要の位置にあるとの位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図 りたい。 また、学生の知識理解、思考判断、技能表現の力を高めるために、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	マーケティング、広告宣伝、メディアの理解と課外活動体験を通してマーケティングマインドの醸成と4年次の卒業研究へのステップとして学生自身が計画を立案できる授業構成および就職活動準備指導に重点を置いた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの学習到達度の自己評価、授業の質の項目については各項目について中央値以上の数値が認められるため達成されたと評価する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの学習到達度の自己評価、授業の質など項目について概ね中央値であるため内容的妥当性はあると評価する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	前年度の課題であった就職活動指導とマーケティング理論の基本的理解、課外活動との時間的配分は事前にオリエンテーションを行なったため計画通りに遂行できた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	科目達成状況としては概ね達成と評価するが、上記の通り、マーケティングの基本学習量の確保・向上と就職活動指導の計画の時間的配分が課題。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①通年科目であり、前期から授業が進むにつれて、卒論制作に充当する時間が増えてくる。全体指導で通用する部分と個別指導で行う部分がある。すべてを個別指導で行うことはできないので、コアになる部分は全体指導で、個別の事例は個別指導で行う。しかしながら、就職活動の日程により、全体指導に加われない学生が出てくる授業が繰り返されることが多くなり、そこまでは授業計画に組み込めないところがあった。そこでは当然授業外の時間でも個別指導で補うことになった。②就職活動にかかる時間が学生により異なり、早期に内定を得た学生は卒論にもゆとりを持ち、取り組んでいた。内定がなかなか得られない学生は、卒論への取り組みがなかなか本格的にできない。そのような場合には締め切りの二日前まで個別指導を行なった。③昨年度(2017年度)のリフレクションでは 次のことを記した。学生の意見として、卒業式の学科別会場で意見が出た。課題が多いとの指摘であった。なお、その学生の発言は、「でも就職できた」と結ばれていた。提出課題は、毎年毎年精選して、少なくしていつている。学生の発言は卒業研究にだけ向けられたものではなく、3年専門演習Ⅱに対するものでもであると理解している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①全体として成績は、9名中、A4名、B5名であり、標準的レベルには十分に達していた。Aの中の3名は理想的レベル(論理的に筋道立てて考え、自分の言葉でわかりやすく、口頭および論文で述べる能力を習得できている)にも達していた。②卒業論文のテーマは、人文学部の観光文化学科という枠組みに反しない限り自由にしており、自分の興味関心のあることを選ぶことで、積極的に文献を選び、理解することで、知識理解、意欲関心は達成された。③思考判断は、卒業論文の論理的構成について、授業で、または一対一の個別指導で繰り返し行い、深化していった。④授業評価項目の「情報利用」では、5名はあらかじめ授業の計画を立てたとしており、卒論への取り組みの心構えができていた者が55%である。⑤卒業論文制作では、研究倫理のチラシ「研究活動をする学生・教職員のみなさまへ」を配布し、「盗用」等を絶対しないように指導した。しかしながら、卒論制作に行き詰まると、安易にネットのコピーペーストをする者もあり、最後の最後まで倫理性については、注意し続ける必要があった。⑥技能表現については、卒論を提出できるまでの過程でそれが身につけていたことになる。⑦学生の授業評価で、2到達度自己評価の「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は、4.3である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①1年前期の基礎演習Aから、演習研究科目を積み上げて、3年次の専門演習Ⅱ、4年次の当科目へと系統的につながっており、内容的な妥当性はある。②Aの中の3名は理想的レベル(論理的に筋道立てて考え、自分の言葉でわかりやすく、口頭および論文で述べる能力を習得できている)にも達していたと、4. 学生の目標達成状況についての(2)で記した。卒論制作で何度もの個別面談を繰り返したが、ある学生はある数的処理を卒論で取り組むことをかなり早い時期に予想していた。そのために、1年次から計画的に履修をしており、数的処理のベースとなる統計学に関わる授業を2年までに履修していた。この学生がいたことで、そのような学習を可能にするかカリキュラムが、総合人間科学、専門科目で体系的に展開されていたことを確認することにもなった。③学習到達度の自己評価は、最低が3.9、最高が4.3である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①就職活動による欠席が、4、5月に従来より多くあることは、現在の就職活動に日程が変わらない限り、どうしようもない。しかしながら、そこは授業外に欠席者だけを集めて、短時間でも個別に補講的な時間をもつことぐらいで補うしかない。②授業評価で情報利用の中でのシラバスについての学生の回答について、「この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした」に対して、8名が「参考にしなかった」と回答している。このシラバスとはUNIPAで閲覧するこの科目の共通シラバスのことである。これとは別に、シラバスの記載をゼミ(3.4年の2年間)の最初に2年間を見渡した大まかな計画書(卒業論文仕上げマニュアル)を配布している。それを毎年、社会環境や学生の実態に合わせて、修正しながら提示している。アンケートで、授業の質の評価で、「(1)テスト、レポート、提出物などの評価基準はあきらかであった」の項目は、3.8であり、妥当だと思われる。③図書館利用については、「図書、雑誌を利用した」が4名、「インターネットのホームページを検索し、利用した」が1名となっている。利用率を上げるには、全員を図書館に連れていき、目の前で検索方法を実演して、学生に実際にさせることが改善方策と考えます。④授業の質評価では、5項目別で最低が3.6、最高が4となっている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①卒業論文制作については、就職活動と切り離せないものがある。時期的に9月ぐらいまでに内定を得た学生は、順調に卒論に従事することができている。しかしながら、就職活動につまずいてしまったと思う学生は、卒論制作でも遅々として進まない傾向がある。理想的には、冬休み前に大まかには完成しておいて、残りは微調整を冬休みにするぐらいの余力を残しておくぐらいのペースが望ましい。そうできない学生で、極端に状況が好ましくない学生には、冬休み前に保護者との三者面談をするなどして、とにかく卒論提出までもっていけるようにゼミを運営している。②4年生の必修の通年科目という位置づけは学生にも強く意識されている。どのゼミに所属するかは、2年次の終わりの本人の意思によるものであり、動機づけが非常に強くできていた学生が多かった。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大切にしていることは、卒業論文作成に当たって、(1)自分独自の視点からのテーマを選定すること、(2)論理(筋道立っていること)と論拠(裏付けとなるデータ、具体的事例など)を駆使すること、(3)研究倫理を尊重・遵守すること、(4)なるべく自分自身の取材などで得た一次情報を得ること、を念頭においてもらうことである。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・授業評価において、「自分なりの目標を達成できた」が4.6であるので、「全体を通して」は上記の通り「達成された」とした。「知識を…新たに得ることができた」が4.8、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が4.5であるので、「知識理解」は「達成」とした。「課題を検討する力」「的確に判断する力」を得ることができたが、各々4.6、4.7であるので、「思考判断」は「達成」とした。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.7であるので、「意欲関心」は「達成」とした。「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)」について学ぶことができた」は4.4であるので、「態度」は「達成」とした。また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.4であるので、「技能表現」も「達成」とした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年次～3年次での学びと演習の積み上げの仕上がりとしての卒業論文作成であり、上記3に記した狙いに沿って、内容的には妥当であるとする。進捗が遅れ気味のゼミ生に対しては、研究室での個別指導を行い、行き詰まりを打開できた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	・上記5の通り、進め方に特に大きな問題はなかったと思う。但し、改善課題としては、個々の学生と指導教員である私との間の一対一の議論だけでなく、学生間の 質疑応答・議論をもっと盛り上げる余地があることかと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	上記4の通り、DP各項目について「達成」としたが、卒論作成の過程と仕上がり状況において学生自身の自覚と意識向上を感じることができたので、指導した立場と して満足している。社会人になってからも、情報収集や自分の意見発信の機会があると思うので、卒論作成の経験を踏まえて、前に進んでほしい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	人文学部創設以来となる最大の人数のゼミであり、その弊害が出ないよう学生一人一人にしっかりと目が行き届くように心がけた。また、半数の学生は3年次は他のゼミに所属していた学生であるため、3年次での授業内容との継続性が保たれるように心がけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	例年、12月上旬までにほとんどの学生が卒業論文を完成していたが、今年度はその時期までに完成した学生は半数にも満たなかった。また、締切日当日まで提出が遅れた学生もいた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年次のゼミでの学びの集大成となる科目であるが、前述のように3年次に他のゼミで指導を受けていた学生につ注意を払っていたものの、私がそれまでの学びをききんと理解できていない部分については、指導の欠如や重複があったようであり、反省をしている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今後、もし人数の多いゼミを担当した場合には、従来の個別指導ではなく、ある程度テーマの近い学生を集めて小集団での指導を行うことで時間の節約と学生間の 情報の共有によるレベルアップをはかりたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	卒業論文の執筆が遅かった学生が多かったことは問題であり、今年度については、モデル論文のようなものを提示して、それを目指して書くことで、学生が自分の執 筆状況を自覚できるような方式を取り入れたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業研究dpえはこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法を習熟させることが本学習の狙いである。従って先行研究の成果を収集する力、それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力、仮説を論文として展開する力等を養うことに主眼を置く。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生による到達度自己評価においては、10項目見ると、平均値は4、3～4、8と高かった。授業評価においては、5項目見ると4、4～4、6と高かった。但し自発的学習と図書館などの利用についてはやや不足したことが示されている。卒論を書くには論理的に筋道を立てて考え、自分の言葉で分かりやすく、口頭及び論文で述べる能力を習得できている理想的レベルに達していた。今年度学科での優秀卒論賞を受賞できた。次年度図書館利用や自発的学習に改善を検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性。卒論研究は四年間の集大成の一にあり、必修科目である。学生の成績を収めていることから、名用には妥当であると考え。②DP、行動目標から見ての内容的妥当性。 学生が積極的に課題を考え、問題を思考判断として、何を論述するかが確実把握できたことから成績は上昇したこともあり、内容的には妥当であったと考え。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表する など、学生が参加する機会が作られていた」の平均が4, 4となり、「口頭発表、 文章などの学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均 4, 6となった。次年度に向けて、更にしっかり確定しながら学生からの質問 を受け付け、対応機会を作り、学生に授業に参加するよう促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	卒業研究にあたる本学科の位置づけから、四年間の勉強の集大成であるとの意識の形成については、概ね達成できた。この授業を履修する際にシラバスの活用等を図りたかったが、関心度不足で、次年度しっかり確認してもらうことを促していきたい。また、毎回の狙いを具体的に示すことや可能な限り卒論を独特に考慮し、意識的に提示するように改善していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「必修科目である」100%、他は 0%となっており、履修者が「卒業研究」では、何を学ぶかについて、まだよく理解できていないことが分かる。シラバスの作成に工夫が必要があると思われる。 ②最初のゼミにシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③月に1回程度、卒論の発表をしてもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。 月に1回程度、就職の指導を行い、学生の就活に役立つスキルを伝授した。	④
--	--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は93.6点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては50%、思考判断に関する問題は50%、意欲関心に関する問題は50%、態度に関する問題は67%、技術表現に関しては33%であった。「技術表現」以外、それぞれの目標がやや達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現の観点での自己評価に差がないことが示された。 図書館、インターネットの利用に関しては、前者は50%で、後者は33%となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「卒業研修」であるが、「活躍できる社会人」をつなぐ要の位置にあり、必修である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われますが、教育方法をさらに検討する必要があると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、各項目については、評価が良かった。特に「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文章など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の評価は良かった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「活躍できる社会人」をつなぐ要の位置にあるとの位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、思考判断、技能表現の力を高めるために、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学(新約聖書)	1	後期	必修	はい	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本講義は、前期に培った旧約聖書の知識を土台として、新約聖書の基礎であるイエス・キリストの生涯と教えや弟子の働きについて理解を深め、キリスト教が世界に広がった経緯について学ぶことを目的としている。新約聖書を土台とするキリスト教の行事についてグループ発表を行い互いに視野を広げ、最後には1年間のキリスト教の学びの集大成として建学の精神である「感恩奉仕」について個々人が向き合い考えを深められるよう、毎回の授業では聖書の輪読や紙芝居、DVD鑑賞やディスカッション、発表など、様々な形態での学びを工夫した。 ②毎回の授業中に記入するポートフォリオでの学びの確認だけでなく、チャペルポートフォリオを導入し、毎回のチャペルのまとめを記入するようにした。チャペルでの体験的な学びを、総合的に把握することができるようになった。 ③後半で行うグループ発表の機会は、学生の関心にあわせて展開し、様々な角度からキリスト教について学びあう事ができた。 ④学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、2年間のキリスト教の学びの集大成をひとつの文章としてまとめる作業を行った。これによって、学生が聖書とキリスト教教育の学びから何を受け取ったのか把握できるようになった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果は、自分なりの目標を達成した(4.0)、知識理解に関しては(4.0)であった。到達度の自己評価の平均値は(3.9)。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの出席率約75%以上とコメントカードの内容、教会訪問の出席率約90%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、新約聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。 また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたことから、全体をとおして教育目標がやや達成されたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「旧約聖書」の学びを踏まえ、展開している。旧約聖書の学びを前提としての発展的な学びとして新約聖書の学びを深めるだけでなく、チャペルや教会訪問を通して全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 新約聖書の内容を視覚教材を取り入れながら学び、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、学生たちが意欲的に取り組んだ。グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らで習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価についての平均値は(4.2)であった。チャペルポートフォリオを導入したことは、チャペル出席へのサポートとなった。チャペル出席はキャンパスライフにもあるように、1年間をとおして3分の2の出席を必要としている。 本講義は、キリスト教に興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.2であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、2年次以降も学生が聖書を開いて日常生活に取り入れられるよう、仕組みを作りたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の集大成として学ぶ科目であるが、旧約聖書を土台に発展的に展開していく上で、旧約での学びが重要である。旧約の復習も講義に加えつつ、学生が中心となって行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。授業の最後に記入するポートフォリオやチャペル出席・教会訪問に加え、チャペルポートフォリオを導入し、関心あるテーマについてグループで調査・発表し、最後に「感恩奉仕」とは自分にとってどのような意味を持つか、個々人の内面の変化を洞察していく作業をおこなった。引き続き、学生の興味関心を引き出し、「感恩奉仕」について日常的に意識できるよう促すことが課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大切にしていることは、1)自分の関心のあるテーマを掘り下げつつ、自分の意見を発することの楽しさを味わってもらうこと、2)著作権を侵害しないように、引用元・参考文献をきちんと記すべきこと、また、他人の意見・情報を自分のもののようには扱わないように区別すべきこと、といった研究倫理を尊重・遵守させること、3)論述に当たって、論理(話の筋道)と論拠(裏付けとなるデータ・事例などのエビデンス)を重視すべきこと、を理解させることである。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・授業評価において、「自分なりの目標を達成できた」が3.9であるので、「全体を通して」は上記の通り「やや達成された」とした。「知識を…新たに得ることができた」が4.0、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が3.9であるので、「知識理解」は「達成された」とした。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」が3.9であるので、「意欲関心」も「やや達成」とした。「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)」について学ぶことができた」が3.6であることから、「態度」は「やや達成」とした。「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は4.0であるので、「技能表現」は「達成された」とした。 ・学生の成績については、総合点の平均が83.8 (n=27)であったので、まずまずの理解状況であり、目標はまずまずの達成(やや達成)であったと言えよう。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・本科目は、その後の2年次～4年次(卒論作成)の学習・研究につながる土台となる、レポートや論文の作成に係る基礎知識や考え方・研究倫理などについて学ぶものである。そのために、1)新聞を読んでのレポート作成、2)自分が選んだテーマについて、2)-①ポスターに記しつつ口頭でクラスメートに向けて発表する、2)-②論文としてより緻密に論述する、という合計3つの方法で自分の意見を述べてもらう形とした。上記3の狙いに沿ったものであり、また、上記DPのうち、特に「コミュニケーションや表現力を高めることができた」(技能表現 DP-5の関係)に資するところ大であるので、内容的に妥当と思考する。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・やる気のある学生を更に後押しするために、また、論文作成への意識が十分でない学生のやる気を引き出すために、個々の履修学生全員との面談を複数回行って、議論し論文作りをサポートしたが、有効であったと考える。また、クラスメートに向けてのポスターセッションの形での発表については、その場でのクラスメートとの質疑応答などのやりとりがあり、また、クラスメートからのコメントをまとめた資料を後日発表学生個々に配付したことは、学生の前向きな取り組みにより刺激になったと考える。 ・学生からの意見として、①「話が長い」とあるが、どの「話」のことを言っているのか、白板に書きつつ全員向けに論文作成の留意点などを述べた部分なのか、個別学生との面談のことなのか、理解できない。②「前期も後期も論文だったので、少しきつかったです」について、演習なので、論文を中心にせざるを得ないことをご理解頂きたい。物事を掘り下げながら考えるには、論文作成に取り組むことが一番有効と考えられるためである。③「AクラスとBクラスで行う内容が大きく異なっていると感じ、Aクラスの負担が大きかったと思う。同じ学科なので学ぶ内容に差がでるのは良くないことではないでしょうか」については、第一に、クラスによる差よりも、自分が得た知識やスキルの向上に役立ったかどうかに関心を向けたい。第二に、両クラスの差が結果としてあったのかもしれないが、もう一人の担当教員も、新聞レポートと論文を扱っていたと聞いており、私のクラスが扱った上記5の1)および2)の二つの事柄の扱いと大きな違いはないのではないかと考える。後者の2)については、学生が選んだ1つのテーマを、ポスターセッションでの口頭発表と論文作成の2つの発信方式をとったものの、学生が扱ったテーマは上記1)と2)の2つであり、過大な負担ということはないのではないかと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	上記3の大切にしていることについて述べると、テーマの掘り下げについては、インターネット情報に頼っている部分がかなり大きいので、もっと書籍を読み議論を深める余地があると思う。また、引用、参考文献の書き方については、まだ不十分であり、研究倫理への意識をもっと高めさせ、改善させる余地は大きいと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初年次セミナーⅠに続き、大学生として必要な基礎学力を達成することが行動目標であるが、この科目だけで達成されたとは言い難い。年間を通した体系的な授業構成が検討課題である
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	知識理解(DP1)、思考判断(DP2)、技能表現(DP5)については、到達度自己評価の評価により、やや到達が妥当と判断する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの学習到達度自己評価では目的をやや達成しているため、DP、CPとの内容妥当性もやや評価できるとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	前年度課題であった学習量レベルが低さを課題提出等の工夫によりレベルアップを図ったがさらなる工夫必要と思われる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	初年次セミナーⅠに続き、大学生として必要な基礎学力を達成することが行動目標であるが、この科目だけで達成されたとは言い難い。年間を通した体系的な授業構成が検討課題である
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。 ②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起した。 ③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ④生涯スポーツになりうる種目を選択肢に置いて、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。 自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①15名が受講し、最終的な成績の平均値は85点で、再試対象は0名で履修放棄1名あった。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは10名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。関心有り67%で関心があって受講した学生が多い。 ②アンケートに答えた13名中、目標到達ができたと答えた学生は13名で、非常に様々な学習効果をもたらしたと考える。(知識の取得13名、理解思考力アップ10名、課題解決獲得12名、判断力獲得13名、意欲向上11名、技術獲得14名、コミュニケーション力14名、職業倫理行動規範学習13名、職業選択の参考11名) ③授業の質について、良好と言う回答が大多数であった。ほぼ質的に良い状況と考える。(評価基準明確13名、学習課題明確13名、分かりやすい説明13名、学生の意見交換発表の場あり10名、質疑応答の場あり13名) ④学習量では13名中、全く予習しなかった者8名、復習しなかった者8名、記録をしなかった者7名、授業以外の学習なし12名と、普段の生活での身体活動遂行には至っていないと思われる。 ⑤授業の情報利用に関して回答者13名中、シラバスを参考にしなかった者は3名、授業計画を立てなかった者5名、シラバスで受講計画した者8名中4名、教員の説明での受講は8名中5名で、半数がシラバスを参考にし、加えて教員の説明は重要と考える。 ⑥授業に関連した図書館の利用をしなかったもの者(13名中)は130名、データベース利用しなかった者13名、インターネット検索しなかった者13名であった。携帯の検索で十分調べられる事も増えたので、その利用法も考案したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、管理栄養士として運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的にであり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極 的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持て るような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	こちらの科目は英語学科と合同開講であったので、ともに足並みをそろえた講義内容となっている。学生の読書体験の乏しさゆえの低迷内容を克服するために、発想、表現、理解力の向上を目指すべく上質の文学作品の構想、構成を紹介し、解明するとともに文学を通して異文化理解を深めることが出来る様に、考察の視野がひろがるような教授法で臨んだ。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	当初は達成度が70%ぐらいであったかと思われるが、徐々に関心を持ち始めたようであったが、そのころから伸び始め、最終的には80%ぐらいはあったように思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ等々における本科目の位置付けから見た内容的妥当性は良かったと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	観光文化学科の学生のほうがやや活発であったようである。人数構成にも夜が、もっとそれぞれの学生が意見が言えるような授業にしてみたいと考えている。学生の積極性をもっと取り入れてみたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総括的には最終講義までには、何とか全ての学生がまずまず達成できていると思われる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	哲学の授業を受講するのは大半の学生にとって初めての経験であると考えられる。したがって、初学者にもわかりやすいように日常生活の事例を哲学思想と関連付けて説明するよう心掛けた(たとえば経験と習慣づけによって徳が習得されるとするアリストテレスの思想をアルバイト経験と結び付けて説明することで多くの学生が共感してくれた)。あまり事項を広げず、アリストテレス、功利主義、カントの思想のエッセンスを、日常生活の事例を用い、かつそれぞれを比較しながら繰り返し説明することを心がけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	わかりやすさという点で言えばまだまだ課題は残るが、試験では学生たちはおおむね授業の趣旨を理解して的確に解答していた(テキストだけでなく板書や口頭の説明を網羅して非常に高い水準の論述答案を作成した学生もいた)。授業評価はおもにわかりやすさが評価基準となると思われるが、本講義のような科目においては各受講者それぞれの観点からの知的好奇心を喚起することがなにより重要である。「人生」の問題を「哲学」的思考と結びつけて考えることにいくらか関心をもつ学生には響くものがあつたと思われるが(実際、毎回欠かさず授業後に質問に来る学生もいた)、現段階で関心のもてない学生はどうしても「難しい・難しすぎる」といった印象を受けるものだと思う。したがって、多数の学生ではなく少数であっても知的好奇心に応える内容だったと受け止められたならば授業に関しては十分目標が達成されたと考える。また「この授業を通して何を得たか」は、試験準備と試験結果をふまえてようやく把握できるものだとなれば、試験答案を見る限り、授業の趣旨は多くの学生に十分伝わったものと考ええる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度の自己評価を見る限り、各自の目標はほぼ到達されたと考えられる(ただし、学期終盤・試験前の自己評価であり、試験後に自己評価を行えばより正確な評価が得られるものと考ええる)。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	板書が見づらかった、板書の追加などによりノートが取りづらかった、誤字があつた、初心者には難しすぎた、など厳しい指摘を受けた。真摯に受け止めたい。とくに板書についてはあとから追加・修正するなどノート作成上余計な手間を要することを控えたい。また説明のわかりやすさについても、日常生活の事例をさらに工夫して取り入れ、より馴染みやすい説明を心掛けたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業については改善点(板書、説明)が多々ある。試験については各自十分準備し、授業の趣旨を理解して臨んでいたと思う。人生の諸課題に哲学的観点からアプローチするという試みに、より多くの学生が興味を持てるように工夫したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語発展	1	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は中国語の基礎知識を学習するものである。中国語入門で習った知識を復習しながら、会話練習、作文練習することを通して、学習者に分かった、できた、通じたという喜びを感じさせ、中国語を話せる自信を付けていくことが、授業の実施にあたりもっとも大切だと考えた。今回の受講動機を見ると「関心のある内容である」が90.6%で、大多数を占め、到達度自己評価の(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができたの項目では平均値が4.3であった。この授業は成果があったと言える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は60以下は0名で、全員が標準レベルに達したと言える。さらに理想的なレベル(おおむね80点以上)に達した学生は半数以上であったので、全体を通して、教育目標は達成されたと考える。 学生による「到達度自己評価」において、(1)～(10)の中央値はすべて4.0であったことから、おおむね教育目標を達成したと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容の妥当性 本科目は「総合人間科学」に属する選択科目であるが、観光文化学科の「専門教育科目――中国語通訳ガイド演習や観光中国語など」の基礎となる重要な位置にある。しかし、受講者は「中国語通訳ガイド演習」や「観光中国語」を受講するつもりのある学生ばかりではない。受講動機は主に「関心のある内容である」であったので(90.6%)、中国語、日本語、英語を比較しながら、授業を進めるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的に妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 「成績評価」と「学習到達度自己評価」などの平均値から見て、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価を見ると(1)(2)(3)の中央値は5で、(4)(5)の平均値は4.3であることから、大多数の学生は授業の趣旨を理解し、授業の進め方を肯定し、真剣に取り 込んでいる。授業内容や進み方は学生に適していると考えられる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「総合人間科学」の一科目として、それから「専門教育科目---中国語通訳ガイド演習及び観光中国語」を受講するに必要な予備知識としての本科目の位置づけか ら、基礎知識の形成についてはおおむね達成できた。 授業以外の学習方法の指導、とくに図書館の利用に関しての不足点は来年度に改善を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が半数を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行う小テストでは復習の成果が現れており、授業内容の理解度は悪くはなかった。到達度自己評価においては4点がでており、授業の質評価でも4であったことなどを根拠と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考え、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと考え、る。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、極力全員の理解度が揃うように内容を見直したりして授業のペース配分に重点をおいた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	個人的な体験が労働政策や福祉政策、教育制度などの現在の社会構造とどのように関連しているかを理解できるよう、社会学的視点で現状を分析できる力をつけることに重点を置いた。そのために、メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど情報を読み解く手法を伝えた。また、学生の将来には多様な選択肢があることを実感できるよう、多方面の分野の外部講師を招聘し、個人の体験や専門的な領域について講話してもらった。特に、1年次の必修であり、この4年間の学生生活がキャリア形成にいかに関係重要であることを理解できるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業中のミニレポートでは、外部講師の話からこれまでさほど意識していなかった問題、例えば、労働問題などが実は身近な重要な課題であることを理解している学生は多かったことが確認された。また、。到達度自己評価から、社会の現状を分析的にみる視点の確保はある程度獲得できたと判断できる。ただし、試験結果からは個人的な体験や将来のキャリア形成とどのように関連付けるかについては、理解の格差がみられた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年次の必修であるため、キャリア形成への関心を広げ、充実した今後の学生生活につなげるよう学生をエンパワーしている点では、内容は評価できる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講者の数が多く、受講生同士の意見の交換や講師とに質疑応答が難しいことが課題となった。また、他学部 of 学生も受講している中で、専攻科目とキャリア形成を具体的に関連付けて考える時間も不十分であった。今後は、学籍番号順に座席を決めるなどして、意見を得やすい環境を整備する。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	多様なキャリア形成について、自分の人生と結び付ける力はある程度身につけたものと思われる。情報を読み解く力を現実の生活の中で活用したうえで、多様な選択肢の中から自己決定する力をもっと身につける必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
映画で学ぶ世界遺産	1	後期	選択	はい	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度の定期試験において地理に関する問題の正答率が低かったため、今回は、地理については取り上げる項目を厳選し、その代わりに詳しく説明をするようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない			やや達成された	やや達成されなかった	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験を受けて「不可」になった学生が4名いたが、授業中に時間をかけたことで理解されていないことがあり、さらに説明の方法について工夫が必要であると思った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合旅行業務取扱管理者試験や国内旅行業務取扱管理者試験などにおいて役に立つ科目であり、学生のコメントを読んでも、そのことを理解して日ごろから学習をしていることが分かった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	学生のコメントで「分かりやすい」というものはあったが、「分かりにくい」というものはなかった。それでも全員が単位取得できるよう、さらに分かりやすい授業を目指 したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今回は、欠席が多いために「放棄」となる学生が多かった。その理由が分からないままであったが、次回は友人関係を頼りに情報収集と欠席が多い学生の激励をし たい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
観光産業論	1	後期	選択	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「関心のある内容である」60.8%、「単位数を確保する」45.6%、「必修科目である」19%となっております。もっと学生の関心を引き出し、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目に小テスト(レポート作成と発表)を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.1点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては97.5%、思考判断に関しては96.3%、態度に関する問題も97.5%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、態度の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、7.3%で、インターネットの利用に関しては、29.2%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、態度に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「観光産業論」となっており、観光産業の範囲・特徴及び各産業の実情について学ぶ。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛けるので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が97. 5%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が87. 8%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「観光産業論」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
経営学入門	1	後期	選択	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「関心のある内容である」62.8%、「単位数を確保する」53.5%となっております。もっと学生の関心を引き出し、シラバスの作成や授業の準備に工夫が必要があると思う。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目に小テスト(レポート作成と発表)を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.9点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関しては100%、意欲関心に関する回答も100%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、意欲関心、態度の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、13.6%で、インターネットの利用に関しては、34%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、意欲関心、態度に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「経営学入門」となっており、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。それと同時に観光産業への就職を希望する学生へ参考となる内容に心掛けている。これらのことから、「観光産業界での就職」をつなぐ要的位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が100%であり、「授業中に自分の意見を まとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が93.1%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加する ことが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「企業での就職」をつなぐ要の位置にある「経営学入門」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、思考判断、意欲関心、態度に関する力を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	堂野崎 融

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
簿記入門	1	後期	選択	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	簿記は経済的事象である取引を認識、測定し、勘定科目を用いて記録し、貸借対照表及び損益計算書を用いて伝達するための方法である。 このことから経済的事象を認識するために記録方法を主体的に学び、その方法を演習していく科目である。 しかし、簿記の方法を具体的な知識として定着させるには、経済的事象に結び付けて理解する必要があると考えている。 そのため、授業内では、現実の取引において行われている内容について触れ、なぜこのような仕訳があるのか、またこの科目が伝達の際にどのように解釈されるのかといった点も含め説明を行っている。 これらのことから、授業準備にあたっては、個々の企業の最新の動態などを新聞やニュース等で知っておく必要がある。 さらに、簿記を習得するには、繰り返し学習(予習復習)が重要なため、演習などを宿題等にし、これを毎回提出させていた。 これについては学生も自由記述において肯定的な意見をのべてくれていたため、今後も重視していきたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価割合は全体としてAが38.5%、Bが28.2%、Cが17.9%、Dが15.4%であった。このことから、簿記についての知識理解についてはやや達成されたと考えている。また、仕訳における思考判断においても、Aの評価割合が高いことから、やや達成されたと判断する。さらに技能表現についても、最終的なテストにおいても全体的に評価割合に準ずる程度にできていたことからやや達成されたと判断する。 以上のことから全体を通して他の平均からみてやや達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	簿記の手法は、万国共通であり、国際的企業及び地域に密着した企業もあることから、その方法を学ぶことは、重要であるとする。このことから上述の目標達成状況を見るに「やや達成された」と評価できることから、内容的妥当性はあると判断する。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の担当教員への意見については、概ね好意的な評価であることから、授業の進め方の方向性としては妥当であると考えている。 しかし、学生の到達度自己評価において中央値が低い値のことが多いことから、これらを改善する必要があると考える。 具体的には、経済的事象についての説明をより増やし、資料等での提示も行っていきたいと考えている。 また演習問題等についても、必要十分条件を満たすものを複数準備したいと考えている。 それによってほかの項目を向上させることが出来ると考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	これまでのことから、経済的事象に関連する配布(もしくは提示)資料及び若干の演習課題を増加によって、全体的な向上が見込むことが出来ると考えている。 特に提示資料及び演習配布資料については、これまでのものを見直し刷新していく必要がある。特に日商簿記検定における新範囲もあることから、刷新は重要といえる。これらの反省を改善点もあることから今後に生かしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	川上 耕平

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際関係入門	1	後期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業の実施にあたって重点をおいたことは、当たり前のことではあるものの、わかりやすい説明を行い、講義内容への関心を維持してもらうという点である。この講義は政治や経済などを扱うが、高校時代に「政治経済」や「現代社会」を十分に履修をしていなかった学生が例年少なからずいる。そこで、純然たる国際関係を扱うだけでなく、担当講師の専門分野であるアメリカの歴史について、動画などを使って説明する機会を設けた（英語に関心のある学生が多いので、政治経済だけでなくアメリカのポップカルチャーも扱った）。 ②履修者の受講動機でもっとも多かったのは、「単位数を確保するため」の61.4%で、「関心がある内容のため」は38.6%にとどまった。本来は後者の数字が高いことが望ましいが、この講義は、3年生以上の演習と同じ時間帯に開講をしていただいたため、（専門的な学習に入る前の）1・2年生の履修者がメインとなったことも関係しているのかもしれない（たまたまとりやすい時間にあったという理由もあったであろう）。その意味でもやはり、興味の薄い学生が関心を持ちやすい内容を話すことに留意した。 ③「学習準備性」という点に関しては、本講義が教科書を指定していないため、事前にレジュメを配った場合には、それを前もって読んできてもらうようにしたが、担当講師は、予習よりも復習に重点を置くことが肝要であるという方針を講義の冒頭で強調した。これは昨年と同様の方針である。また、宿題を提出してもらった際は当然その準備を学生に求めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価は、宿題（30%）と学期末の試験（70%）の2つが柱となっている。宿題は授業内容と関係のある英語の曲の歌詞を訳すものであって、ほとんどの受講者が提出し満点であった。期末試験を合計した総合得点の平均を計算したところ約79.93点という数字となったが、持ち込みを認めないテストにしては（ただ試験の出題内容は事前にヒントとして与えている）、これは高い点数であり、講師の伝えなかった事がある程度理解してくれたと判断している。 「到達度自己評価」の数値でみると、この講義に最も該当するのは、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」という分野の数値であろうが、平均点は3.51になっている。数字で見ると、61人が回答した中で、「そうでない」と否定的に回答（「全くそうでないと思う」と「少しそうでないと思う」の合計）したのは5人であった。なお、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目があるが、語学系とは異なる本講義はそうしたことを目的とはしていないので、これについては否定的な回答が増えるのは当然と思われる。 また、各回の講義でそれなりの量の文献を紹介しているが、「図書館利用」をみると、「この授業では、図書館の図書、雑誌を利用した」という項においては、61人中利用したのは3人であった。指定図書などのかたちで図書館に置いているわけではないので致し方ないと思うが、残念な数字である。教養としての読書の薦めを説いたつもりだが、成績評価とは関係のない本を読むことの大切さをこれからも訴えていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 観光を学ぶ学生にとって国際政治の知識は不可欠のものであるが、本講義ではそれだけでなく、外国語の読解にとっても必要な知識を提供している。なぜなら、外国語は文法や単語を詰め込んだだけでは解釈することはできず、多岐にわたる背景文化についてそれなりに知識をもっていないと、適切な日本語に置き換えることはできないからだ。そうした講義の姿勢が妥当だったかどうかを判断するには、「授業の質評価」を参照する必要があるが、私の講義に対する否定的な回答をした学生が、すべての項目で61人中1割程度いた。しかし不思議なのは、講義終了後はコメントカードを配り、自由に質問を書いてもらうかたちにしており、講義終了後も、質問に来た学生にはその都度対応をしていたにもかかわらず、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目に「全くそうでないと思う」と答えた学生が4人いたことである。その意味で、ほとんどの項目で「全くそうでないと思う」と回答している学生は、誠実に授業評価してくれたのか尋ねてみたい気がする。 ②DP、行動目標からみての内容妥当性 DP3つまり意欲関心については、履修動機の段階で消極的なものが多かったのは先述の通りである。それを覆して、講義内容に関心をもってもらうということが内容妥当性になるが、全体の8割は、評価の重要項目で「そうだと思う」「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」「まあまあそうだと思う」の合計）と答えている。以上から、内容的妥当性については問題ないと考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	「授業の質評価」の欄に、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」という項目がある。最近の教育ではこうした点を重視することが求められるものの（アクティブラーニング）、講義の性質上どうしても一方的に話すことが多くなってしまうことが多くなってしまうので、この点を解消する努力をしたい。 なお、受講者の自由記述の意見で、「この授業の性格がわからない」という趣旨のコメントが4件あったが、それは、国際関係の講義として歴史の説明をした一方で、英語を利用したこともあったため、「歴史の授業なのか語学なのかわからない」という感想をもたれたと推測している。また、とっつきやすさを重視するためオムニバスの内容となっており、その分体系性が犠牲にされていることもあるのかもしれない。ただ、こうした講義の性格は冒頭で予め学生に説明している。 また、「少し説明がわかりにくい」というコメントが1件あったが、私の講義は予備知識なしでもわかるように説明するよう心掛けているものの（本当にわかりにくい説明なら複数そういうコメントがあるはず）、集中力のない学生にまで浸透する魔法のような説明力は有していない。その意味でどんなに興味を持たせるために話題を選んだとしても限界がある。ただ、来年度はこうしたコメントがゼロになるよう努力したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	履修者が多いため、すべての学生に100%の満足度を与えることは難しい講義であったのかもしれない（それは少人数の講義でも同じことだが）。その現実を踏まえた場合、今回の学生による授業評価で、私の講義に対して致命的な問題点を指摘する学生はほとんどおらず、数値的に見ても、まじめに回答してくれた学生はほとんど肯定的評価（「まあまあ思う」以上の合計は約8割）をしてくれていると考えている。その意味で、総括的には学生の期待に応える講義を行うことができたと判断している。ただ、講義以外での家庭学習（紹介した文献を読むなど）に時間を割く必要性を理解してもらうことが課題になると思われる。 また、例年のことではあるが、実際に講義を行ってみると、この種の内容の授業の予備知識がない学生がいるため、入念な導入的説明をするとシラバスどおりに終わらないことがあった。しかし、学生がわからないまま一方的に進めることのほうが弊害が多いので、今後も学生の理解度を確認しながら講義を進めていきたい。
-----------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フィールドワーク入門	1	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は全15講のうち、前半にフィールドワークの意義と役割を座学で学び、中盤から後半にかけては受講生が自ら設定した研究テーマに沿ってフィールドワークを含めた調査を行なってもらおうという流れで催行した。授業にあたって工夫したのは以下の諸点である。 ①フィールドワークは1-3名からなるグループで行なってもらった。また、グループごとに、 (1)テーマ決め等を含む事前準備、(2)催行直前の調整、(3)催行後の結果発表、の3回に分けて発表してもらった。 ②成績のメインとなったのはもちろんフィールドワークにかかる一連の取り組みである。この点数については、8名が80-85点、5名が70-75点、4名が60-65点であった(満点100)。 ③フィールドワークについて最終講に気付いたことや新たな発想・発案を各自でレポートにまとめてもらった。レポート点については60-95点の間であった(満点100)。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講登録者は22名であったが、退学や長期欠席により、実質の受講者は17名であった。学年は全員が1年生であった。1年生の25%ほどが履修してくれた科目であり、退学・長期欠席者を除けば、全員単位を取得することができた。 業評価アンケート(回答者16名。以下同)によると、図書館の利用のうち、図書・雑誌を利用した者は4名、CiNiiなど学術データベースを使用した者は6名、インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者は8名であった。いずれも過半数に達した数値ではないが、一方で相対的に少ない数値でもなく、それなりに図書館を利用してくれたと考える。 出席状況については、皆勤は7名、1回遅刻1名、1回欠席1名と、半数以上は大変良好な出席状況であった。一方、4回欠席1回遅刻2名、4回欠席1名など、あまり芳しくない者もあり、こうした普段からの取り組みが最終成績にも影響していたと考えられる。 フィールドワークの取り組みやレポート点、平常点から総合的に評価した結果、単位自体は実質の受講者全員に付与することができた。内訳は「秀」1名、「優」9名、「良」5名、「可」2名となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	すでに上述した内容からも示された通り、よく努力してくれた者から最低限の努力の者まで成績分布については幅が生じた。 授業評価アンケートによると、「受講動機」(本項目のみ回答者15名)は「単位数を確保する」が最も多く、10名で、67%を占めた。次点は「関心のある内容である」の6名(40%)であり、この項目も一定の学生が選択してくれたことはうれしいことである。 「到達度自己評価」は10項目あるが、ポイントはすべて3.3から3.8の間の狭い範囲に固まっていた(5点満点)。最高点である3.8は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の2項目であり、科目の特質を理解し、首尾よく身につけてくれたと言える。3.3は「職業選択の参考になった」であるが、そうした性質の科目ではないため、高く出なくとも妥当ではある。 授業アンケートの自由記述では、学習量の評価として、「アンケートをとった」、「論文を調べたりした」など行なったことをそのまま書いてくれた。担当教員への意見としては、「ありがとうございました」、「楽しい授業でした」とあり、学生・教員間の相性もよく、充実した講義となったことが示された。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目ではフィールドワークについて、知識・実践・有意な経験を授けようと努力された。受講生達は上述のように、人によって努力の量に差は認められたものの、授業を総合するとますます芳しい結果となった。 授業評価アンケートによると、予習について、0が1名、30分から1時間が3名、1時間半から3時間が8名、3時間半から5時間が4名であり、過半数が毎回1時間半以上の予習をしてくれた。復習については、0が4名、30分から1時間が4名、1時間半から3時間が7名、3時間半から5時間が1名であり、予習ほどではなかったが、それでも半数ほどが毎回1時間半以上かけてくれた。 ノート テイクについては12名がしてくれた。これも過半数である。授業の課題以外の学習に取り組んでくれた者は7名となったが、前述のように、予習や復習で多くの時間をかけてくれたため、ほかに手を回す時間を確保するのが難しかったとも言えるだろう。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業評価アンケートの「授業の質評価」によると、これは5項目あるが、すべて3.6から3.9という狭い範囲の中にあつた(最高点5)。最高点の3.9は、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであつた」と「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の2項目であり、特に後者のポイントが高く出たのは授業の特質とも合致し、喜ばしいことである。最低点の3.6であつたのは、「説明は理解しやすいものであつた」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の2項目である。担当教員としてはどちらも努力したと考えるが、それがうまく届かないこともあつたとデータからは読み取れるため、よりしっかり届くよう、今後一層の努力を行ないたい次第である。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用英語	1	後期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	同じく必修の「基礎英語」から引き継がれる必修科目という位置づけから、前期に学んだ基礎英語を基盤にして、普段、教室の英語では触れない様々なタイプの英語(例えば、アメリカ英語の口語体で書かれた文書、など)に取り組んで、さらに英語力の幅を広げてほしいという狙いから、海外の大学が独自に制作している「留学生向けのキャンパス生活指導ハンドブック」の一部を教材に用いました。主に英米の大学のものを通じて、例えばアメリカ英語の会話に頻出する慣用表現を知るといった、ふだん接することのない英文に馴れるだけでなく、海外の学生生活の一端や文化、風俗、習慣、さらにはその国の特徴や国民の性格特徴に至るまで、幅広い知識を持ち、視野を広げてもらうことを目標にしました。また学科の方針に則り、毎回、「英単語小テスト」(初回はテストの説明、最終回は翌週に答案返却できないため、13回、各30問を作成して実施)と、「多読(英文読書)レポート9回以上」を実施しました。なお「英単語小テスト」は翌週に採点した答案を返却するだけでなく、講評を加え、さらに得点の集計と分析結果を公表し、テストへの意識を高めてもらえるように努めました。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回実施した「英単語小テスト」に関しては、欠席や遅刻による未受験者が若干見られましたが、クラス全体の平均点では、努力が認められる結果(概ね50%に近い平均点)であったこと。課題の「多読(英文読書)レポート」については受講生全員が完遂したこと。平均70～80点を目標に作成した学期末試験の結果、得点上位者と下位者には、かなりの開きが見られましたが、クラスの平均点では、およそ75点であったこと。これらを総合的に判断して、目標はほぼ達成されたと判断し、「やや達成された」としました。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムMAPにおける位置づけをみて、必修科目の一つであり、「基礎英語」で習得した英語基礎力を応用し、さらに発展させる科目として、英語の「読み」「聞き」「書き」「話す」4技能の上に、「様々なタイプの英語」に習熟することや「英語圏の人や文化」を知ることが「応用」の観点から不可欠の要素であることから、全く妥当な内容であり、DPの「知識理解」に適ったものであると判断します。また学科の方針である「英単語テスト」の実施や「英書の多読」は理に適切であると考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	すでに、上記の「目標達成状況」と「その判断の根拠」で述べましたが、授業の状況(指名して口頭発表した際の内容など)や課題レポート(英書の多読)や各種テスト(学期末試験や毎回の英単語テスト)の結果を総合して、概ね達成できた(評価「やや達成された」と判断しましたが、「もっとわかり易く説明してほしい」という要望と「もっと授業レベルを上げてほしい」という要望は、同時に両方を満足させることは、(特に「マンツーマン」のチューター授業でないクラスでは)現実問題として、クラス全体のレベルと受講生個々のレベルの調整は容易ではないと思いますが、今後、英語力の不足気味の受講者層を、引き続き主対象にしつつ、高いレベルを望む受講生には、別途、課題を与えるなどの方策を講じたいと考えています。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	応用英語という科目にふさわしく、「基礎英語の後に続く内容」や「様々な応用された英語とはどのようなものを指すのか」といった、授業で取り上げるべき内容や対象の再検討と、その内容や対象の体系化(許された授業回数や時間の中で、求められる学習内容や学習対象を恣意的に、あるいはアトランダムに選ぶのではなく)を探りたいと考えます。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用英語	1	後期	必修	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前期の英語の必修科目(基礎英語90分15回)を受ける英語の必修科目である。英語の読解を中心とする授業である。英語が得意、好きである学生から、英語嫌いの学生まで全員に履修させる授業である。受講動機は、「必修科目である」と「単位するを確保する」で、100%である。②英語力の幅の広い学生層に対応するために入学時に英語の習熟度別クラスで授業を編成している。③学習準備性に対しては、語彙調べを二週間前に提出させて、そのほとんどを印刷して、一週間前に配布し、それを使い予習してくるようにさせていることで向上させている。それを使い、テキストの読み込みが楽になることを意図している。授業の質評価の2「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(回答者数31名)では、「少しでもそうでないと思う」以下の者が5名であり、「まあまあそうだと思う」13名、「わりとそうだと思う」8名、「かなりそうだと思う」(5名)という数字がでており、事前の学習の取り組みやすさを示している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①34名の採点対象者の全体の成績評価の内訳は、A2名、B8名、C13名であり、ここまでで67.6%となる。②英語の多読活動(自分の興味・関心、英語力)に合った段階別の多読図書を読む活動)では、Weekly Reportを9回分以上提出という課題があり、29名の学生はクリアした。③E-learning (CH1eruの学習マイルを400以上を達成すること)は、30名の学生は達成した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①2018年度入学生から始まったこの科目は、2017年度以前の入学生対象のカリキュラム(英語の必修授業はすべて一年次)と異なり、2年次の英語のマルチメディアイングリッシュ基礎(前期必修科目)の前に位置する科目である。そこでのインプットを重視する内容を理解する授業の前に置かれる授業として、内容的にも妥当なものである。学生の授業評価では、2. 到達度自己評価における10の項目で、最低が3.2、最高が3.4となっている。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①学生の意見では、二つあった。1. 説明のりかいはまったくできなかった。2. 単語テストの時、単語の発音を正しくしてほしいです。他の単語との区別ができず、わからなかったです。1については、PPTでの説明や繰り返し丁寧な説明をする必要がある。2. については、英語の音がつながって聞こえる場合の難しさを指摘してくれているという意味で、大変貴重な意見として受け止めます。改善方策としては、英語の音のつながりに学生が慣れてもらうように指導をすることになります。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①少し長い文章での読解については、そのような英語に触れる時間を増やして、学習してもらうしかありません。英語との接触時間を増やすためにも、自主的に多読活動やE-learning を利用する学習習慣をどのように身につけるかが課題となります。③授業準備で記載した「語彙調べ」については、これを評価でどうするのかとの質問を授業中に受けた。「評価の対象とはしない」と答えた。そうすると、最初は大半の学生が出していいが、最終的に3割ぐらいの特定の学生たちだけが提出することになった。学生としては当然の判断である。次年度は「語彙調べ」を評価の対象とすることで対応を考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初級中国語会話	1	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①一年生を対象とする授業である。学習者にとって中国語は初めて学ぶので、中国語の特徴と学習方法を説明する。中国語の発音、基本文法の学習、会話の練習を中心とした講義を通して、中国語の話し方、習慣の表現などの特徴を理解し、基本的応用能力を身に付けてもらう。更に中国語に理解を深めるために、中国の文化、歴史、事情等を適宜に紹介する。②学習者の学習への意識を高め、学習状況を確認するため、ユニットごとに確認テストを行う。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は89点であり、再試対象は0名であった。全員標準レベルに達したが、理想的レベル(概ね85点以上として試験を作成)に達したものは23名となった。学生による到達度自己評価においては、「知識を確認、修正したい、新たに得ることが出来た」「新しい知識を身に付けた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意識を持つことが出来た」、「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」においては、それぞれほぼ25名と高かった技能表現に達している。授業の質評価においては、「授業中、自分の意見を纏める、話し合う発表するなど、学生が参加する機会が作られていた。」「口頭、文章など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」ほぼ全員と高かったが、「説明は理解しやすいものであった」においては、少しそうではないと思う学生が4名もいた。次年度常に学生を中心にして、授業を取組んでいかないといけないと反省点であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性においては、本科目は「専門基礎科目」であり、「専門基幹科目」へとつながる要の位置にある。内容的には妥当であるとする。②DP、行動目標から見ての妥当性においては、異文化、多言語の領域の成績は上昇したことから内容的には妥当であったと考える。③以上からの内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物等評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文章等で学生の質問を受け付け、答える機会が作られていた」ほぼ26名全員と高かったと示されていた。但し、「説明は理解しやすいものであった」においては、26名中4名が「少しそうではないと思う」学習者がいたので、次年度授業の改善に向けてなければならないと反省する。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形式については概ね達成できたが、コミュニケーション能力の面で課題を残した。この点は学生に中国語で日記等を書いてもらっている練習を通して、効果がはっきり示されているので、次年度より綿密に実施していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
コミュニケーション中国語	1	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. コミュニケーション中国語の概要及び達成すべき目標とは、「勉強の継続性を考え、より一層高い講読力、聴取力及び会話力を養うことです。中国語に対し関心を持ち、豊かな表現を楽しみながら、語彙と文型の学習をする」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の38.5%を除いて、③「関心のある内容である」は92.3%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数が少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてももう少し考慮していく必要があると考える。 3. 「少人数だから、教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場面を増やしていくことができるように工夫したい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は87.1点であった。標準的レベルを超えていた。 2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の観光業を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週6回以上の準備を6人、4回以上を4人、3回以上を3人が行っていた。また、授業の記録作成にも多くの学生が自分なりのノートを作成したという成果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点4.4点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.9点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1.「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2.「学習量の評価」については授業外の学習は半数の学生が行っていたこと から、次年度に向けても具体的な課題を提示していく。 3.「図書館やインターネット等の利用」はあまりしていないという結果がでていた。引き続き、授業と関連し ている知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1. コミュニケーション中国語は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学 習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米文化交流研修A	1	前期	選択	はい	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は人文学部の2学科共通の科目であり、夏季にドイツの大学で学び、交流することを柱とした。それも含め、科目で取り組んだことは具体的に以下の3つである。 ①夏季に渡独するまで、ドイツの政治、経済、社会、文化などを教室で俯瞰した。ドイツ語の基礎も教え、渡独前に複数の学生がドイツ語検定の5級に合格してくれた(但し、受験、合格は英語学科の学生のみ)。 ②ドイツでは午前中は大学でのドイツ語の授業を受講した。そこでドイツ語を深めた。午後からは自由時間であったが、受講生達は思い思い過ごした。ドイツ語だけでなく、英語でもほかの国から来た学生や現地のドイツ人達と交流することができた。 ③ドイツと隣国チェコに行き、これらの国々における観光のあり方についても直に学ぶことができた。このように、ドイツ語に加え、英語、観光のどちらも研鑽することができた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本紙は観光文化学科側のものについて書いている。当科目の受講生は3名であり、学年としては2年生1名、1年生2名であった。但し、1年生のうち1名は中退したので、実質的に学科としての受講者は2名である。単位は2名全員が取得してくれた。 授業評価アンケート(回答者2名。以下同)によると、図書館の利用について、図書・雑誌の利用をした者、ならびに、CiNiiなど学術データベースを利用した者はゼロであった。一方、インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者は1名であり、半数を占めた。但し、CiNiiなどでの検索も含め、インターネットの利用については特に図書館を利用せずともほかの場所でもできることではある。 出席状況については、2名とも皆勤であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目はドイツでの研修を行なうことを大きな目的としていることもあって、受講者は相対的に情熱があり、勤勉であった。 授業評価アンケートによると、「受講動機」は「関心のある内容である」が2名(100%)となり、上段の科目担当者の感覚を裏付ける結果となった。 「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて5点であった(5点満点)。担当者としては、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の3項目が満点となったのは、これら項目が科目の目的と整合性があるため、特に嬉しいことである。 授業アンケートの自由記述欄には担当者が見舞われた突然の不幸、それに伴う心理面からの体調の不調を受講生に説明したことに、1名から「困りました」と書かれた。しかし、ドイツを学ぶということは、必然的に、多数決の恐ろしさを認識し、論理的に考える訓練をし、説明する力をつけ、対話を通して共生を図っていくことを学ぶことである。研修を通して、ドイツ語だけでなく、ドイツの理念や価値観まで掘り下げて学んで欲しかったと言える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講生達はこれまでの人生でドイツや欧州について、あまりなじみがなく、訪欧も全員が初めてという状況であったが、それだけに新鮮な気持ちでしっかりと授業に取り組んでくれた。 授業評価アンケートによると、予習については全員がゼロであった。復習については、0が1名である一方、3時間半～5時間が1名であった。復習に重きを置いていた本科目であり、半数にあたる1名の取り組みの姿勢はこれに合致したものとなった。 ノートについても1名のみ取ってくれる結果となった。取らなくては身に付かない内容ではあり、2名ともにこうした基本を疎かにしないでもらいたかった。「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」も同様に取り組んだ者は半数にあたる1名であった。日頃の復習だけでもかなりの分量があったため、1名だけでも取り組んでくれたことに敬意を表したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果を見よう。5項目あるが、2.0から4.0とバラツキが生じた。4.0であったのは「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」と「期間内に行なうべき学習の範囲や課題は明らかであった」の2項目である。2.0は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」であった。2.0となった項目は、確かにドイツ語などを教える中で、この項目と合致しない時間もあったが、極力取るよう努力したつもりであり、低くポイントが出されてしまったのは残念ではある。 総合すると、受講者は総じて熱心に取り組んでくれはしたものの、ドイツというこれまでの人生で培った価値観が揺さぶられる存在に接した結果、適応に苦労してしまった者も一部ではあるが見られる結果となった。成績については、「優」と「良」がそれぞれ1名となった。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
上級日本語	1	後期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	留学生向け科目ということもあり、日本語の読み・書き・話すの向上はもちろんだが、文化、経済など時事問題にも興味を持ってもらえるように内容を工夫した。具体的には新聞記事の熟読、テレビ番組使用などをメディアを最大限活用して日本語の向上と応用日本語科目へのステップアップを目指した。結果としてはアンケート評価どおり目的を達成した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの学習到達度の自己評価、授業の質の項目については各項目について中央値以上の数値が認められるため達成されたと評価する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの学習到達度の自己評価、授業の質の項目については各項目について中央値以上の数値が認められるため達成されたと評価する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	目標も達成され、またアンケート評価も各項目とも満足のいくものであったため特に改善点はない。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標が達成されたため特に課題はなし。
------------------------------	---------------------------

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用日本語	1	後期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業を実施するにあたって大切にしていることは、履修学生が好きな日本語学習を、嫌いにわずに、更に前に進もうとする意欲を後押しすること、および、履修学生の語彙力を強化してもらうことである。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・授業評価において、「自分なりの目標を達成できた」が4.0であるので、「全体を通して」は上記の通り「達成された」とした。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.0、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が4.0であるので、「知識理解」は「達成」とした。「課題を検討する力」「的確に判断する力」を得ることができたが、共に4.0であるので、「思考判断」は「達成」とした。 ・学生の成績については、総合点の平均(N=2)が83.5であったので、良好な理解状況であり、目標はまずまずの達成状況であったと言える。また、上記事項3には含まれていないが、「学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.0、「学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が4.5、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が4.5と自己評価していることから、上記3の「後押し」はできたと思えるし、一連の日本語の授業の設置目的が、日本での学びの土台となる日本語力向上であったので、その観点からも、達成されていると理解できる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・人文学部と観光文化学科のDPにおいて、「人文科学あるいは社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力を身につけている」「現代社会の実態と課題を学際的な視点でとらえることができる」「現代社会の様々な課題について、課題解決に向けて判断し、提案できる」などが言及されている。本授業科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および上記の学生の目標達成状況、学生の一定の成績実績から、内容的にほぼ妥当と思考する。 ・また、上記4に記述の通り、本学科での学び以降の土台となる日本語力向上に資するものと考えられることから、内容的に妥当と考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	・前述の通り、履修学生の語彙力向上を狙いとしており、単語個々の勉強ではなく、日本文化など学生たちが興味を持つテーマの文章の流れの中で語句を学んで いってもらいたいとして、新聞などの記事を多く読んでもらったが、概ね妥当だと考える。他に、尊敬語、聞き取り(ディクテーション)なども扱ったが、受け入れてもら えたと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	もともと日本語学習に意欲を持つ少人数(2名)の中国人留学生相手の授業であり、手応えはあったが、上記4の通りの達成状況であり、好ましいと思う。
------------------------------	---

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ツーリズム演習	1	後期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は1年生配当の必修科目であり、観光のある分野を掘り下げて考えるという内容で実施した。テキストには村上敦(2017)『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか―近距離移動が地方都市を活性化する』学芸出版社を用い、ドイツの都市における都市計画の取り組みと日本の現状について議論も通し、検討した。これにかり、以下の工夫をした。 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	履修者は全員、ドイツなど西欧に行った経験はなく、かなりの部分で観念的に学ばなければならない状況ではあったが、受講者によってはよく理解してくれようとなめてくれていた。そうでない者も見られたが、最低限度の対応はしてくれた。 授業評価アンケートによると、予習・復習の時間とも、30分～1時間が3名、1時間半～3時間が1名と、全員取り組んでくれた。とても喜ばしいことである。既述のように、元々がもう1つのクラスと比較して、本クラスを自発的に受講してくれたということもあるため、この科目の内容が合っていたと取れるだろう。但し、内容が合っていない科目も、必修科目でも当然ありうる。そうしたときに、なんとかおもしろみを自発的に見つけていってもらえるよう、彼女たちに期待したい。 ノートについては取った者が2名(50%)、授業の課題以外に学習に取り組んだとした者も同様に2名であり、受講生によって差が生じたということも言えるのだが、人数の半分はしっかりと取り組んでくれたと言うこともでき、この者たちが今後、ほかの授業などにおいても、他の者をリードしていってくれば大変心強いのではないかと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果を見よう。5項目あるが、1項目(「説明は理解しやすいものであった」)が3.8、ほか4項目はすべて4.0と相対的に高く出た(最高点5)。中でも、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が高く出たことは喜ばしく思う。このように、1名には成績で「可」と出さざるをえなかったなど反省点もあり、また、この者以外についても(上述のように)たとえば出席状況は相対的に芳しいとはいえない状況であったなど、まだ興味関心を惹く努力をする余地は残っているのだが、それでも自発的に参加してくれた者達であるだけに、総じて良好ではあった。特に「秀」を出した2名のうち、1名は熱意を感じ、ほかの4名も化粧をしたり、スナック菓子を食べたりなどもあったが、肝心のところではしっかりと対応してくれた。今後、ほかの授業でもメリハリを持って、誠実に取り組んでくれればよいなと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ツーリズム演習	1	後期	必修	いいえ	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「必修科目である」79.2%、「関心のある内容である」24.5%、「単位数を確保する」22.6となっているが、もっと学生の関心を引き出し、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目に小テスト(レポート作成と発表)を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.7点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては、96.2%、思考判断に関しては、96.2%、意欲関心に関しては、96.2%、態度に関しては、96.2%、技能表現に関する問題も96.2%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、15%で、インターネットの利用に関しては、18.9%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「ツーリズム演習」となっており、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を学ぶ。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛けるので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が98. 1%であり、「説明は理解しやすいものであった」と思っている学生数が90. 5%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が86. 8%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「ツーリズム演習」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現に関する力を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	--